

京都国立近代美術館
活動報告

令和4年度



WOMAK Report 2022

京都国立近代美術館 活動報告
令和4年度(2022)

目次

[展覧会／コレクション展]	
04	展覧会一覧表
12	令和4年度 展覧会一覧表
13	令和4年度 コレクション展記録
14	令和4年度 展覧会記録
[作品の収集、保存、貸出]	
26	令和4年度 作品の収集、保存、貸出
[展覧会協力事業]	
47	令和4年度 展覧会協力事業
[普及・学習支援・出版事業]	
48	令和4年度 普及・学習支援・出版事業
55	令和4年度 広報
[調査・研究]	
56	令和4年度 研究員業績一覧
[名簿]	
59	評議員・職員

Contents

[Exhibitions / Collection Gallery Exhibitions]	
04	Table of Exhibitions
12	Table of Exhibitions 2022
13	Collection Gallery Exhibitions 2022
14	Exhibitions 2022
[New Acquisitions, Conservation, Loans from MoMAK Collection]	
26	New Acquisitions, Conservation, Loans from MoMAK Collection 2022
[Exhibition-related Cooperation]	
47	Exhibition-related Cooperation 2022
[Public, Learning Programs and Publications]	
48	Public, Learning Programs and Publications 2022
55	Publicities 2022
[Research Activities]	
56	Research Activities 2022
[Nominal List]	
59	The Board of Trustees and Museum Staff

国立近代美術館京都分館

昭和38年度 [1963]

- 1 現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向
- 2 ビュッフェ展—その芸術の全貌
- 3 工芸における伝統と現代
現代絵画の動向—西洋と日本—
- 4 村上華岳の芸術
- 5 工芸における手と機械
- 6 シャガール展
- 7 北大路魯山人の芸術
- 8 近代日本の洋画と工芸—明治・大正期—
- 9 近代日本の洋画と工芸—昭和期—

昭和39年度 [1964]

- 10 現代美術の動向—絵画と彫塑—
- 11 児島善三郎遺作展
- 12 現代イギリス彫刻展
- 13 ピカソ展—その芸術の70年
- 14 浅井忠の芸術
- 15 現代日本の工芸
- 16 現代国際陶芸展
- 17 禅の美術
- 18 日本・カラー1964—現代写真代表作展
特別陳列:東京オリンピック報道写真
- 19 近代日本画の歩み

昭和40年度 [1965]

- 20 小出檜重展
- 21 世界の染織(1)—エジプトとペルシア
- 22 現代美術の動向 絵画と彫塑
- 23 近代絵画の流れ
- 24 前衛絵画の先駆者たち
- 25 入江波光展
- 26 フォーブ60年展
- 27 具象絵画の新たな展開
- 28 戦後の油絵と版画
- 29 現代ヨーロッパのリビングアート

昭和41年度 [1966]

- 30 稲垣稔次郎展
- 31 現代美術の動向
- 32 岡田謙三—1952年から1965年まで展
併陳:近代日本の工芸—所蔵作品を中心とする
- 33 日本の近代絵画—国立近代美術館所蔵作品による—
- 34 富田溪仙展
- 35 ミロ展
- 36 現代アメリカ絵画展
- 37 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
- 38 現代アメリカのリビングアート

昭和42年度 [1967]

- 39 近代日本の絵画(日本画)と工芸
- 40 近代日本の絵画(洋画)と工芸

京都国立近代美術館

昭和42年度 [1967]

- 41 近代日本画の名作
- 42 現代美術の動向
- 43 異色の近代画家たち
- 44 近代日本の工芸
- 45 現代イタリア美術展
- 46 勅使河原蒼風の彫刻
- 47 デュフィ回顧展
- 48 現代陶芸の新世代

昭和43年度 [1968]

- 49 土田麦僊展
- 50 生誕100年記念 ボナール展
- 51 モジリアニ名作展
- 52 現代美術の動向
- 53 陶工河井寛次郎展—川勝コレクション—
- 54 ロートレック展
- 55 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
- 56 近代デザインの展望

昭和44年度 [1969]

- 57 山口薫回顧展
- 58 日本画の新人たち
- 59 菅井汲展
- 60 現代美術の動向
- 61 ゴーギャン展
- 62 現代イギリス版画展
- 63 京都国立近代美術館所蔵品による
近代日本の工芸
- 64 東洋の染織 インド・東南アジア・中国

昭和45年度 [1970]

- 65 石黒宗麿回顧展
- 66 富本憲吉遺作展
- 67 現代美術の動向
- 68 現代の陶芸—ヨーロッパと日本—
- 69 バーバラ・ヘップワース展
- 70 英国風景画展 ターナー／コンスタブルとその周辺
- 71 エドワルド・ムンク展
- 72 第7回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和46年度 [1971]

- 73 所蔵作品展
- 74 小合友之助・河合卯之助 二人展
- 75 近代日本の彫刻
- 76 ルネ・マグリット展
- 77 染織の新世代
- 78 現代の陶芸
—アメリカ・カナダ・メキシコと日本

昭和47年度 [1972]

- 81 近代イタリア美術の巨匠たち
- 82 現代スウェーデン美術展
- 83 デューラーとドイツ・ルネッサンス展
- 84 現代美術の鳥瞰
- 85 ベーテル・ブリューゲル版画展
- 86 ヨーロッパの日本作家
- 87 ジェームズ・アンソール展
- 88 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
- 89 シカゴ美術館浮世絵名品展

昭和48年度 [1973]

- 90 所蔵品による欧米の陶芸
併陳:新収作品の紹介
- 91 吉原治良展 明日を創った人
- 92 現代工芸の鳥瞰
- 93 グラフィック・イメージ '73
- 94 アメリカの日本作家
- 95 近代日本美術史におけるパリと日本
- 96 キリシタン美術の再発見
—西洋と日本の出会い
- 97 デ・キリコによるデ・キリコ展

昭和49年度 [1974]

- 98 ダダの女流画家
ハンナ・ヘッヒの芸術
- 99 アンドリュー・ワイエス展
- 100 グラフィック・イメージ '74
(ワード+イメージ)
- 101 沖縄の工芸
- 102 現代メキシコ美術展
- 103 第9回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和50年度 [1975]

- 104 現代衣服の源流展
- 105 ポール・デルポー展
- 106 異色の水墨画家
—野沢如洋・泥谷文景・小川千壺
- 107 香月泰男遺作展
- 108 フランス工芸の美
—15世紀から18世紀のタピスリー
- 109 シュルレアリスム展
- 110 ポール・デービス展
- 111 ソ連寄贈福田平八郎作品展
併陳:近代の日本画
—所蔵作品による—

昭和51年度 [1976]

- 112 ドイツ・リアリズム 1919—1933
ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
- 113 ドイツの現代陶芸
- 114 アメリカのキルト
- 115 異色の水墨画家
—水越松南・山口八九子・楠瓊州
- 116 今日の造形(織)—ヨーロッパと日本
- 117 キュービズム展
- 118 オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展
- 119 第10回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和52年度 [1977]

- 120 イタリア古版画展
—15世紀から18世紀—
併陳:近代日本の版画—所蔵作品より
- 121 金鈴社の画家たち
—鏑木清方、吉川靈華、平福百穂、
松岡映丘、結城素明
- 122 「第九の怒濤」を中心とするロシア美術館名作展
併陳:ソ連政府寄贈福田平八郎作品展
- 123 近代の日本画—所蔵作品より—
- 124 現代美術の鳥瞰
—明日を探る作家たち—
- 125 今日の造形(織)—アメリカと日本
- 126 フォンタネージ、ラダールと明治前期の美術
- 127 ピカソ展
- 128 牛島憲之の芸術
—50年の歩み その静温な風景詩—

昭和53年度 [1978]

- 129 オスカー・ココシユカ展
- 130 没後50年記念 佐伯祐三展
- 131 世界の現代画家50人展
—サザラランドからフォロンまで—
- 132 現代日本の工芸
- 133 ヨーロッパのポスター:
—その源流から現代まで—
- 134 世界現代工芸点
—スキャンディナヴィアの工芸—
- 135 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・彫刻—
- 136 安井曾太郎展 京都が生んだ洋画の巨匠

昭和54年度 [1979]

- 137 ソ連邦所蔵のフランス近代絵画展
—ブーシキン、エルミターージュ両美術館から—
- 138 没後50年記念 岸田劉生展
- 139 異色の水墨画家
—西晴雲・近藤浩一路・山下摩起
- 140 ベルー・天野博物館所蔵品による
ブレ・インカの染織
- 141 フランス絵画の巨匠たち
—ボストン美術館秘蔵展—
コローからブラックまで
- 142 速水御舟の芸術展 写実と幻想の天才画家

昭和55年度 [1980]

- 143 浪漫衣裳展「洋装事始」をうながした西欧の波
- 144 銅版画の巨匠 長谷川潔展
- 145 現代ガラスの美
—ヨーロッパと日本—
- 146 ボンビドゥ・センター／
20世紀の美術
- 147 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・工芸—
- 148 イタリア・ルネッサンス美術展
- 149 八木一夫展

昭和56年度 [1981]

- 150 須田国太郎展
- 151 マチス展
- 152 異色の水墨画家
—日高昌克・井上石郵・董牛人—
- 153 現代ガラスの美
—オーストラリア・カナダ・アメリカと日本—
- 154 モーリス・ドニ展
- 155 所蔵作品展—近代の絵画
- 156 1960年代—現代美術の転換期

昭和57年度 [1982]

- 157 ザオ・ウーキー展 油彩と墨絵
- 158 坂本繁二郎展
- 159 菊池契月展
- 160 アメリカに学んだ日本の画家たち
国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・
シーン絵画
- 161 イギリスのニードルワーク
- 162 モネ展
- 163 新しい紙の美術—アメリカ

展覧会一覧表

Table of Exhibitions

昭和58年度 [1983]	191 ジェリコー展	平成3年度 [1991]	252 ヴィクトリア&アルバート美術館展 英国のモダン・デザイン —インテリアにみる伝統と革新—	277 写真の誕生から現代まで —館所蔵世界の近代写真 I	306 ルネ・ラリック 1860—1945展
164 榊原紫峰展	192 ヤン・グロート展	222 フランク・ロイド・ライト回顧展	253 ブルーノ・タウト展 近代建築のあけ ぼの / 宇宙建築師の夢	278 漂流教室：イメージの図書館から —18人の中学生が創る18の展覧会	平成13年度 [2001]
165 河井寛次郎展	昭和63年度 [1988]	223 生誕100年記念 長谷川潔展	254 日本の美—伝統と近代	279 土田麦僊展 日本画の偉才 —清雅なる理想美の世界	307 前田青邨展
166 現代彫刻の異才 辻督堂展	193 北大路魯山人展	224 ロバート・ヴェンチュリー&スコット・ ブラウン展 —建築とデコラティブ・アート	255 写実の系譜IV：『絵画』の成熟 —1930年代の日本画と洋画	280 文人画の近代 —鉄斎とその師友たち展	308 ミニマルマキシマル —ミニマル・アートとその展開 1990年代の現代美術
167 フランシス・ペーコン展	194 ファイバーアートの新領域 —アメリカ	225 フィレンツェ・ルネサンス芸術と修復	256 京を描く—近代日本画に見る京都—	281 村岡三郎展 熱の彫刻 —物質と生命の根源を求めて	309 京都の工芸 [1945—2000]
168 ニューヨーク近代美術館所蔵品によ る20世紀アメリカのポスター	195 梅原龍三郎遺作展	226 野島康三とその周辺 日本近代写真と絵画の—断面	257 ピーター・ヴォーコス展	282 生誕100年記念 豊田勝秋展	310 オーストリア・デザインの現在 —広がるデザインの世界
169 現代美術における写真 —1970年代の美術を中心として	196 1986、87年度新収作品展	227 京都の未来像 建築展	平成7年度 [1995]	283 新収藏品展 1993～1997	311 生誕100年記念 小松均展
昭和59年度 [1984]	197 つながれた形の間—飯田善國展	228 大英博物館所蔵品によるアフリカの 染織	258 クロッシング・スピリッツ カナダ現代美術展 1980—1994	平成10年度 [1998]	312 シェナ美術展 —絵画・彫刻・工芸の精華
170 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展	198 現代イギリスの工芸	229 金田和郎回顧展	259 神秘的顯現 ギュスターヴ・モロー展	284 没後90年記念 浅井忠展	313 銅版画の巨匠 長谷川潔展
171 パルチュス展	199 写実の系譜III —明治中期の洋画	230 荒川修作の実験展 —見る者がつくられる場	260 思索する色とかたち 作陶50年 タカエズ・トシコ展	285 森村泰昌 [空装美術館] —絵画になった私	平成14年度 [2002]
172 今日のジュエリー 世界の動向	200 萩須高德遺作展	231 ゴッホと日本展	261 情熱の画家・フォーヴの旗手 生誕100年記念 里見勝蔵展	286 テキスタイルの発言：イギリスの今日	314 日本画への招待—人・花・風景—
173 現代美術への視点 —メタファーとシンボル	201 大きな井上有一展	平成4年度 [1992]	262 ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築 と応用美術 1896—1916	287 生誕100年記念 岡鹿之助展	315 カンディンスキー展 抽象絵画への道 1896—1921
昭和60年度 [1985]	平成元年度 [1989]	232 在米35年 孤高の軌跡 川端実展	263 ピカソ 愛と苦悩 —「ゲルニカ」への道	288 京都の工芸 [1910—1940] —伝統と変革のはざまに—	316 アメリカ現代陶芸の系譜 1950—1990 自由の国のオブジェとうつわ
174 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展	202 華麗な革命 —ロココと新古典の衣裳	233 イサム・ノグチ展	264 現代美術への視点 —絵画、唯一なるもの	289 土谷武展 しなやかな造形、生成するかたち	317 スーラと新印象派 —光と点描の画家たち
175 マチス、ミロ、ピカソら巨匠による近 代の挿絵 併陳：フィラデルフィア美術館所蔵 の版画24点による見えない敵—伝 染病	203 くるまからパスタまで ジウジアーロ・デザインの世界	234 オーストラリア絵画の200年 —自然・人間・芸術—	平成8年度 [1996]	290 ムンク版画展	318 クッションから都市計画まで —ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作 連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900—1927
176 現代デザインの展望 —ポストモダンの地平から—	204 ル・サロン(1667—1881)の巨匠たち フランス絵画の精華	235 アポリジニの美術 伝承と創造 / オーストラリア大地の夢	265 生誕100年記念 徳岡神泉展	平成11年度 [1999]	319 ウィーン美術史美術館名品展 —ルネサンスからバロックへ—
177 写実の系譜 I —洋風表現の導入 —江戸中期から明治初期まで—	205 現代デザインの水脈： ウルム造形大学展	236 フランク・O・ゲーリー展 —建築と家具—	266 リチャード・ロング展 山行水行	291 身体の夢 ファッションOR見えないコルセット	平成15年度 [2003]
昭和61年度 [1986]	206 ヴァチカン美術館特別展 —古代ギリシャからルネッサンス、 バロックまで	237 現代美術への視点 形象のはざまに	267 身体と表現 1920—1980 ポンピ ドゥー・センター所蔵作品から	292 生誕110年・没後20年記念展 小野竹喬	320 知られざる西アフリカの美術 富と権力、王国2000年の歴史
178 新館開館記念特別展： 京都の日本画1910～1930 大正のころ・革新と創造	207 美の旅人 池田遙邨遺作展	238 フォーヴィズムと日本近代洋画	268 増殖するイメージ 小牧源太郎遺作展	293 倉俣史朗の世界	321 東松照明の写真 1972—2002
179 写実の系譜 II —大正期の細密描写	208 能弁なオブジェ —現代アメリカ工芸の展開	239 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 I：世界の工芸—所蔵作品 による—	269 テキスタイルの冒険—現代オランダ の4人のアーティスト—	294 京都新聞社創刊120年記念展 近代京都画壇と「西洋」 —日本画革新の旗手たち—	322 韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展
180 レンブラント・巨匠とその周辺	209 ファイバーアートの先駆者 —高木敏子遺作展	平成5年度 [1993]	270 プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪： プロジェクト [意志的・投機的] な実践の再発見に向けて	295 エディンバラの工芸	323 横尾 by ヨコオ：描くことの悦楽 —イメージの遍歴と再生
181 山口華揚・六代清水六兵衛遺作展	210 現代美術への視点 —色彩とモノクローム	240 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 II：近代の美術 —所蔵作品による—	271 結成100年記念 白馬会 —明治洋画の新風	296 パリ・オランジュリー美術館展 ジャン・ヴァルテル&ポール・ギョーム コレクション	324 神坂雪佳展—琳派の継承・近代デ ザインの先駆者
昭和62年度 [1987]	211 生誕100年記念 ニューヨークの憂愁 国吉康雄展	241 ゴーギャンとポン＝タヴァン派展	272 大正日本画の異才 —いきづく情念 甲斐庄楠音展	297 日本の前衛 Art into Life 1900—1940	325 オーストラリア現代工芸3人展： 未知のかたちを求めて
182 宮殿からピラミッド計画へ 「大改造すむルーブル美術館」展	平成2年度 [1990]	242 賈又福中国画展 東洋画の新星	273 北脇昇展 —理知と幻想のシュルレアリスト	298 所蔵品でたどる 新しい造形表現 —1960年から今日まで—	326 ヨハネス・イッテン —造形芸術への道
183 館コレクションから選んだ写真 —近代の視覚・100年の展開—	212 モランディ展	243 谷角日沙春展	274 モダンデザインの父 —ウィリアム・モリス	平成12年度 [2000]	327 デカダンスから光明へ 異端画家・ 秦テルフの軌跡—そして竹久夢二・ 野長瀬晩花・戸張孤雁…
184 スウェーデンのテキスタイル・アート	213 スペイン現代陶芸展	244 メランコリア—知の翼— アンゼルム・キーファー展	平成9年度 [1997]	300 麻田鷹司展	328 京都国立近代美術館コレクション から 日本洋画の130年—見つけ、 感じ、表現する画家たち
185 カンディンスキー展	214 高橋秀展 エロス・極限の赤と黒	245 京の記憶 / スティーヴン・ファージング展	275 ドイツ現代写真展《遠・近》 —ベルント&ヒラ・ベッヒャーとその 弟子たち—	301 粟辻博展 色彩と空間のテキスタイル	329 彫刻家：堀内正和の世界展
186 日本現代陶芸展—4人の視点	215 ブラハ国立美術館所蔵 ブリュエー ルとネーデルランド風景画展	246 国画創作協会回顧展	276 宿命の画家—土着と前衛のはざま に—萬鐵五郎展	302 STILL\MOVING： 境界上のイメージ—現代オランダの 写真、フィルム、ビデオ—	
187 ブリュッセル王立美術歴史博物館 所蔵：ヨーロッパのレース展	216 イメージ&オブジェクト日本展	247 柳原義達展		303 没後70年記念 小出檜重展	
188 北欧クラフトの今日 —白い光・深い森のオブジェたち	217 移行するイメージ： 1980年代の映像表現	248 オーストラリアのジュエリー展		304 万国博覧会と近代陶芸の黎明	
189 若林奮展	218 写真の過去と現在	249 ルフィーノ・タマヨ展		305 トーマス・シュトゥルert： マイ・ポートレート	
190 現代イタリア陶芸の4巨匠展	219 現代美術の神話—ソナベント・コレ クション ジャスパー・ジョーンズからア ンゼルム・キーファーまで	平成6年度 [1994]			
	220 小磯良平遺作展	250 モードのジャポニスム展 —キモノから生まれたゆとりの美—			
	221 没後50年 鹿子木孟郎展	251 イスラエルの工芸展			

平成16年度 [2004]	358 文承根+八木正 1973-83の仕事	平成23年度 [2011]	411 文化勲章受章記念 志村ふくみ —母衣への回帰—	437 日本・ポーランド国交樹立100周年 記念 ポーランドの映画ポスター
330 COLORS ファッションと色彩 VICTOR&ROLF@KCI	359 カルロ・ザウリ展 —イタリア現代陶芸の巨匠	386 没後100年 青木繁展 —よみがえる神話と芸術	平成28年度 [2016]	438 京都国立近代美術館所蔵作品にみる 京のくらし —二十四節気を愉しむ
331 近代日本画壇の巨匠 横山大観展	360 新収作品展 —寄贈されたM&Yコレクション 池田満寿夫の版画	387 視覚の実験室 モホイ=ナジ/ イン・モーション	412 オーダーメイド:それぞれの展覧会	439 人間国宝 森口邦彦 友禪/デザ イン—交差する自由へのまなざし
332 ブラジル:ボディ・ノスタルジア	361 玉村方久斗展	388 「織」を極める —人間国宝 北村武資	413 キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより	440 分離派建築会100年 建築は芸術か?
333 没後25年 八木一夫展 —現代陶芸の異才	362 ドイツ・ポスター 1890-1933	389 川西英コレクション収蔵記念展 夢ことともに	414 ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH	令和3年度 [2021]
334 ジャパニーズモダン —剣持勇とその世界展	平成20年度 [2008]	平成24年度 [2012]	415 あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術	441 ビビロッチェ・リスト: Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの鳥—
335 痕跡—戦後美術における身体と思考	363 生誕100年記念 秋野不矩展	390 すべての僕が沸騰する —村山知義の宇宙—	416 メアリー・カサット展	442 モダンクラフトクロニクル —京都国立近代美術館コレクシ ョンより—
336 草間彌生展—永遠の現在	364 ART RULES KYOTO 2008	391 井田照一の版画	417 茶碗の中の宇宙 樂家—子相伝の芸術	443 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅
337 京都国立近代美術館所蔵 —川勝コレクションの名品 河井寛次郎展	365 ルノワール+ルノワール展	392 KATAGAMI Style —もうひとつのジャポニスム	418 endless 山田正亮の絵画	444 上野リチ:ウィーンからきた デザイン・ファンタジー
平成17年度 [2005]	366 「日本画」再考への序章 没後10年 下村良之介展	393 近代洋画の開拓者 高橋由一	平成29年度 [2017]	445 新収蔵記念:岸田劉生と 森村・松方コレクション
338 村上華岳展	367 没後30年 W.ユージン・スミスの写真	394 日本の映画ポスター芸術	419 戦後ドイツの映画ポスター	446 サロン! 雅と俗 —京の大家と知られざる大坂画壇
339 through the surface:表現を通して —現代テキスタイルの日英交流	368 生活と芸術—アーツ&クラフツ展 ウィリアム・モリスから民芸まで	395 山口華楊展	420 技を極める —ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸	令和4年度 [2022]
340 20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二展	369 現代美術への視点 —エモーショナル・ドローイング	396 開館50周年記念特別展 交差する表現 工芸/デザイン/ 総合芸術	421 絹谷幸二 色彩とイメージの旅	447 MONDO 映画ポスターアートの最前線
341 近代日本画の名匠 小林古径展	370 上野伊三郎+リチ コレクション展 ウィーンから京都へ、建築から工芸へ	平成25年度 [2013]	422 岡本神草の時代	448 没後50年 鏗木清方展
342 堂本尚郎展	371 椿昇 2004-2009: GOLD/WHITE/BLACK	397 芝川照吉コレクション展~ 青木繁・岸田劉生らを支えたコレク ター	423 ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	449 生誕100年 清水九兵衛/六兵衛
343 須田国太郎展	平成21年度 [2009]	398 泥象 鈴木治の世界—「使う陶」から 「観る陶」、そして「詠む陶」へ—	424 明治150年展 明治の日本画と工芸	450 ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡— 市民が創った珠玉のコレクション
344 ドイツ写真の現在—かわりゆく「現 実」と向かいあうために	372 ラグジュアリー:ファッションの欲望	399 映画をめぐる美術 —マルセル・ブロータースから始める	平成30年度 [2018]	451 リュイユ— フィンランドのテキスタイル: トゥオマス・ソパネン・コレクション
345 ドイツ表現主義の彫刻家 エルンスト・バルラハ	373 京都新聞創刊130年記念 京都学「前衛都市・モダニズムの京 都」1895-1930	400 皇室の名品—近代日本美術の粋	425 生誕150年 横山大観展	452 開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌— 絵画、演劇、映画を越境する個性
平成18年度 [2006]	374 東京国立近代美術館フィルムセン ター所蔵《袋—平コレクション》より 無声時代ソビエト映画ポスター展	401 Future Beauty 日本ファッション: 不連続の連続	426 バウハウスへの応答	
346 人と自然:ある芸術家の理想と挑戦 フンデルトヴァッサー展	375 生誕120年 野島康三 ある写真家 が見た日本近代	402 チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより	427 生誕110年 東山魁夷展	
347 生誕120年 藤田嗣治展: パリを魅了した異邦人	376 ウィリアム・ケントリッジ —歩きながら歴史を考える—そしてド ローイングは動き始めた……	平成26年度 [2014]	428 没後50年 藤田嗣治展	
348 生誕120年 富本憲吉展	377 ボルゲーゼ美術館展	403 上村松篁展	429 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて	
349 プライスコレクション 若冲と江戸絵画展	378 マイ・フェイバリット—とある美術の 検索目録/所蔵作品から	404 うるしの近代 —京都、「工芸」前夜から	430 京都の染織 1960年代から今日まで	
350 都路華香展	平成22年度 [2010]	405 ホイッスラー展	平成31年度/令和元年度 [2019]	
351 揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに	379 稲垣伸静・稔次郎兄弟展	406 現代美術のハードコアはじつは世 界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより	431 京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎	
352 アール・デコ・ジュエリーの世界 輝きの詩人シャルル・ジャコー、プ シュロン、ラリックらの宝飾デザイン	380 ローマ追想—19世紀写真と旅	平成27年度 [2015]	432 トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美	
平成19年度 [2007]	381 Trouble in Paradise/ 生存のエシックス	407 ポスターにみる ミュージカル映画の世界	433 ドレス・コード? —着る人たちのゲーム	
353 ノイズレス: 鈴木昭男+ロルフ・ユリウス	382 「日本画」の前衛 1938-1949	408 ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才	434 円山応挙から近代京都画壇へ	
354 福田平八郎展	383 上村松園展	409 現代陶芸の鬼才 栗木達介展	435 記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ	
355 舞台芸術の世界 ディアギレフの ロシアバレエと舞台デザイン	384 麻生三郎展	410 琳派400年記念「琳派イメージ」展	令和2年度 [2020]	
356 シビル・ハイネン: テキスタイル・アートの彼方へ	385 パウル・クレ— —おわらないアトリエ		436 チェコ・デザイン 100年の旅	
357 没後10年 麻田 浩展				

令和4年度 展覧会

Exhibitions 2022

令和4年度 展覧会一覧表

Table of Exhibitions 2022

回数	展覧会名	会期	開催日数	入場者数		備考
				総数	1日平均	
446	サロン！雅と俗— 京の大家と知られざる大坂画壇	[3.23] 4.1～5.8	34 [42]	9,996 [11,740]	294 [280]	共催：朝日新聞社
447	MONDO 映画ポスターアートの最前線	5.19～7.18	53	50,606	955	共催：国立映画アーカイブ
448	没後50年 鎗木清方展	5.27～7.10	39	72,137	1,850	共催：毎日新聞社、 NHK京都放送局、 NHKエンタープライズ近畿
449	生誕100年 清水九兵衛／六兵衛	7.30～9.25	50	8,696	174	共催：京都新聞
450	ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡— 市民が創った珠玉のコレクション	10.14～ 2023.1.22	84	44,186	526	共催：ルートヴィヒ美術館、 日本経済新聞社、テレビ大阪、 BS-TBS、京都新聞
451	リュウユー— フィンランドのテキスタイル： トウオマス・ソパネン・コレクション	2023.1.28～ 3.31 [4.16]	52 [68]	20,008 [26,349]	385 [387]	
452	開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌— 絵画、演劇、映画を越境する個性	2.11～3.31 [4.9]	42 [50]	18,398 [23,909]	438 [478]	共催：日本経済新聞社、 京都新聞
合計	延べ		249 [265]	153,413 [160,668]	616 [606]	[]は会期通算期間、参考として記載、 合計には含まない。 MONDO展、リュウユー展はコレクシ ョン・ギャラリーで開催した展覧会のた め合計には含まない。
	コレクション展(全5回)	[3.18] 4.1～2022.3.31 [4.16]	[325] 299	[137,348] 128,660	[423] 430	コレクション展のみの入館者数： 26,424 []は会期通算期間、参考として記載、 上記合計には含まない。

コレクション展 Collection Gallery Exhibitions

当館所蔵の日本画、洋画、版画、彫刻および陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリーなどの工芸、写真などの中から適宜作品を選択して紹介。年間約5回の展示替により、日本の近代美術の大きな流れの中の代表作や記念的な作品をおりまぜて展示するとともに、欧米の近・現代の作品もあわせて展示し、エデュケーショナル・スタディズを含む、以下のようなテーマ展示を行った。

※「2022年度第1回コレクション展」の会期におけるエデュケーショナル・スタディズ03は令和3年度(2021年度)事業のため、開催内容は令和3年度の活動報告に掲載している。

令和4年度 コレクション展記録

Collection Gallery Exhibitions 2022

第1回コレクション展

2022年3月18日(金)～5月15日(日) 計85点

- ・ 合わせ鏡の対話／不在の間
——森村泰昌とドミニク・ゴンザレス＝フォルステル
- ・ 上方と洋画
- ・ エデュケーショナル・スタディズ03
眼で聴き、耳で視る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎
- ・ 陶芸の色彩
- ・ 近代工芸にみる文房具
- ・ 西洋近代美術作品選

第2回コレクション展

2022年5月19日(木)～7月18日(月) 計148点

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ 「没後50年 鎗木清方展」によせて
- ・ 戦争と写真：W. ユージン・スミス
《第二次世界大戦》と《スペインの村》
- ・ 近代工芸の着物
- ・ 飾りと装いの工芸
- ・ 坂本繁二郎と青木繁

第3回コレクション展

前期：2022年7月22日(金)～8月28日(日) 計131点

後期：8月30日(火)～10月2日(日) 計130点

計157点(展示替は27点)

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ 伝統／革新
- ・ クール、ハード、エロティック
——版画におけるフォルムと色彩
- ・ 五代・六代清水六兵衛と河井寛次郎
- ・ 京都の工芸
- ・ 霞光と静物画
- ・ 特集：三尾公三

第4回コレクション展

前期：2022年10月8日(土)～11月27日(日) 計122点

後期：11月29日(火)～2023年1月22日(日) 計121点
計150点(うち展示替は27点)

- ・ 珠玉の日本画
- ・ ニュー・パウハウスの写真：
ドイツからアメリカへと渡った実験室
- ・ コレクターの眼 芝川照吉と川勝堅一
- ・ 小出檜重と裸婦

第5回コレクション展

2023年1月28日(土)～4月16日(日)、計90点

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ 前衛書
- ・ いとへの仕事
- ・ 画家の工芸意匠
- ・ 伊藤快彦・長谷川良雄・霜鳥之彦

MONDO 映画ポスターアートの最前線

MONDO: The Front Runner of Film Poster Art

主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ
特別協力：MONDO
会期：2022年5月19日(木)～7月18日(月・祝) (53日間)
入場者数：50,606人(一日平均：955人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, National Film Archive of Japan
Special cooperation: MONDO
Dates: Thursday, May 19 – Monday & Holiday, July 18, 2022
Visitors: 50,606 (955 per day)



ポスターデザイン：村松道代(taohaus)

当館と国立映画アーカイブが協働して開催する映画ポスター展第9弾となる本展では、これまでとは異なり、映画ポスターの最新動向を紹介することを目指した。

ここで採り上げたアメリカのテキサス州オースティンを本拠地とするMONDO(モンド)は、映画史上の名作から最新作までの映画のポスターのデザインを、感性鋭いグラフィックデザイナー・イラストレーター・コミック作家・画家といった様々な現代のアーティストに委嘱し、彼らが映画を独自に解釈して創作したオリジナル・ポスターを製作している。スクリーンプリントによって限定版として制作されたそれらポスターは、“オルタナティブ・ポスター”と呼ばれ、映画ファンのみならず、グラフィックアートやイラストレーションの愛好家などからも高い関心を寄せられている。

本展は、MONDOから直接借用したポスター71点で構成された。その際、可能な限り多彩なアーティストのデザインをピックアップし、また対象となる映画作品も、無声映画の古典、ディズニー作品、著名な大作アメリカ映画、SF映画、日本の怪獣映画やアニメ作品、ゾンビ映画を含む恐怖映画、アルフレッド・ヒッチコックやスタンリー・キューブリックといった巨匠作品など、幅広いセレクションとすることで、内容をより親しみやすいものにするよう務めた。さらにMONDOとアーティストたちの全面的理解のもと会場撮影を可能としたことで、若い世代を中心に多くの来場者を得ることができた。また本展は、MONDOを公的文化機関で初めて包括的に採り上げたものとして、SNSなどを通じて海外でも注目された。

本展は、2021年12月7日から2022年3月27日まで国立映画アーカイブで開催された後、当館に巡回した。
(池田祐子)

This was the ninth in a series of film poster exhibitions held jointly by The National Museum of Modern Art, Kyoto and the National Film Archive of Japan. Unlike earlier exhibitions in the series, here the aim was to showcase the latest trends in film poster design.

The exhibition focused on the company MONDO, based in Austin, Texas. MONDO commissions various contemporary cutting-edge artists, ranging from graphic designers and illustrators to comic creators and painters, to design posters for movies from all-time classics to the latest releases, and they produce original posters that offer unique interpretations of the films. Screen-printed in limited editions, these “alternative posters” have garnered significant attention not only from cinema buffs but also from graphic art and illustration aficionados.

This exhibition featured 71 posters sourced directly from MONDO. Efforts were made to present designs from a diverse range of artists and to include a broad spectrum of films – silent classics, Disney titles, American blockbusters, science fiction, Japanese monster movies and anime, zombie and other horror movies, iconic works of auteur directors such as Alfred Hitchcock and Stanley Kubrick – with the goal of presenting content that connected with the widest possible audience. With the full cooperation of MONDO and its artists, photography was allowed at the venue, and this helped to attract a large number of visitors, particularly of the younger generation. As the first comprehensive exhibition featuring MONDO at a public cultural institution, it drew attention overseas as well via social media and other platforms.

The exhibition was held at the National Film Archive of Japan from December 7, 2021, to March 27, 2022 before its run at this museum.

(IKEDA Yuko)

カタログ Exhibition Catalogue

展覧会に合わせてブックレットを発行
日本語、英語：37cm×26cm、15頁
図版 カラー34点；参考図版 カラー2点

収録論文等

「MONDOとは何か？」クリス・ジャルフカ
ポスター作家略歴 クリス・ジャルフカ編

編集：国立映画アーカイブ、京都国立近代美術館
執筆：Chris Jalufka(アート・ライター)、国立映画アーカイブ
翻訳：篠儀直子(翻訳家)、岡田秀則、濱田尚孝、池田祐子
デザイン：村松道代(taohaus)
印刷：株式会社新光
発行：独立行政法人国立美術館／国立映画アーカイブ、
京都国立近代美術館



会場風景(撮影：河田憲政)

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

京都大学新聞：6月16日「ポスター展 有名映画ずらり (MONDO 映画ポスターアートの最前線)」(玄)

京都民報：7月3日「あの名作がアートに」

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース(視る)No. 520(5-6月号)「MONDO 映画ポスターと1960年代日本の〈サイトウプロセス〉」(竹内幸絵)

文教ニュース 令和4年4月18日「〈MONDO映画ポスターアートの最前線〉展 京近美で5月19日より開幕」

没後50年 鏗木清方展

Kaburaki Kiyokata: A Retrospective

主催：京都国立近代美術館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
協賛：DNP大日本印刷
会期：2022年5月27日(金)～7月10日(日) (39日間)
入場者数：72,137人(一日平均：1,850人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, The Mainichi Newspapers, NHK
Kyoto Station, NHK Enterprises, Inc. Osaka Branch Office
Sponsorship: Dai Nippon Printing Co., Ltd.
Dates: Friday, May 27 – Sunday, July 10, 2022
Visitors: 72,137 (1,850 per day)



ポスターデザイン：上田英司(シルシ)

令和4(2022)年が、上村松園と並び称された美人画家として定評のある鏗木清方(1878-1972)の没後50年目にあたることを記念し、初公開作品を含む約110点の日本画作品で構成する清方の大規模な回顧展。当館では初めて、京都でもこの規模の回顧展は実に45年ぶりの開催となった。江戸の面影を色濃く残した東京に生まれた、生粋の明治東京人たる清方は、その生涯にわたり、江戸・東京の風俗画を多く残している。また、戯作者であり、毎日新聞の前身にあたる東京日日新聞の創刊に関わった父・條野採菊の影響により幼い頃より親しんだ文学、芝居、歌舞伎、落語に取材した作品でも知られている。2019年に東京国立近代美術館が収蔵し話題になった《築地明石町》《新富町》《浜町河岸》の三部作を揃って、関西で初公開するとともに、美人画だけではなく清方の全貌を紹介するべく、絵日記や風景画、挿絵原画や芝居絵などを積極的に借用、展示した。

本展は、東京国立近代美術館で開催された後、当館に巡回した。作品は共通であったが、東京会場がテーマ展示としたのに対し、京都会場では制作年順の展示とし、東京と比較し鏗木清方作品に触れる機会の圧倒的に少ない関西の来場者が、その画業を混乱なく理解出来るよう工夫した。それによって、今展の骨子である「庶民生活を描く」という画家の意識が、画業の最初期から最晩年まで貫かれていたことを再認識することが出来た。

(小倉実子)

The year 2022 marked the 50th anniversary of the death of Kaburaki Kiyokata (1878-1972), an artist esteemed for his bijinga (pictures of beautiful women) which rank alongside the works of Uemura Shoen. On this occasion we held a major retrospective of Kaburaki's works, presenting approximately 110 Nihonga (Japanese-style) paintings, some of which were shown for the first time. This was the first time a Kaburaki retrospective of this scale had been held at this museum, and the first time one had taken place in Kyoto in 45 years.

Born in Tokyo at a time when it still retained strong characteristics of Edo (as the city was known until 1868), Kaburaki, a genuine Meiji-era Tokyoite, created a host of works dealing with Edo and Tokyo throughout his life. He is also known for works that deal with literature, drama, kabuki, and rakugo storytelling. The artist developed a deep familiarity with these themes as a child under the influence of his father Jono Saigiku, a playwright who was also involved in establishing the Tokyo Nichinichi Shimbun (Tokyo Daily News), the precursor of the present-day Mainichi Shimbun. In 2019, The National Museum of Modern Art, Tokyo made the widely noted acquisition of the triptych "Tsukijiakashi-cho, Tokyo", "Shintomi-cho, Tokyo", and "Hama-cho Gashi, Tokyo", and these works had their Kansai-region premiere as part of this exhibition. Seeking to offer a full picture of the artist's oeuvre beyond his famed bijinga, for this exhibition we actively borrowed and presented Kiyokata's diaries, landscape paintings, original illustrations and depictions of the theater.

The retrospective opened at this museum after its stint at The National Museum of Modern Art, Tokyo. While the works remained consistent, the Tokyo venue presented them thematically, whereas we opted for a chronological display. This was to ensure that viewers from the Kansai region, who have had fewer opportunities to engage with Kiyokata's works than their Tokyo counterparts, could grasp the arc of his artistic development without confusion. As a result, visitors were able to recognize the artist's determination, consistent throughout his career, to depict the daily lives of ordinary people.

(Ogura Jitsuko)

カタログ

Exhibition Catalogue

日本語、英語：30×23cm、309頁
図版 カラー126点、モノクロ1点 参考図版 カラー1点、モノクロ32点

収録論文等

- 「鏗木清方 生活を描いた画家」鶴見香織
- 「コラム①清方の描く装い」山崎菜未
- 「コラム②清方と娘道成寺」小玉祥子
- 「コラム③小さくえがく」鶴見香織
- 「コラム④生活をえがく」鶴見香織
- 「没後五十年を迎えた清方との思い出」根本章雄
- 「清方を巡る人々、出会いと制作」今西彩子
- 「清方さんと京都」小倉実子

編集：鶴見香織(東京国立近代美術館)、中村麗子(東京国立近代美術館)、小倉実子(京都国立近代美術館)、三宅さくら(毎日新聞社)、福田智子(毎日新聞社)、NHK、NHKプロモーション
執筆：鶴見香織、小倉実子、山崎菜未(ポーラ美術館)、小玉祥子(毎日新聞社)、根本章雄、今西彩子(鎌倉市鏗木清方記念美術館)、長名大地(東京国立近代美術館)
翻訳：小川紀久子
デザイン：梯 耕治
プリンティング・ディレクター：高野裕之(DNPメディア・アート)
制作：印象社
印刷・製本：大日本印刷
発行：毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
ISBN：978-4-90-710241-8

ジュニアガイド

Junior Guide

「NHKジュニアガイド」
日本語：A5サイズ/カラー
無料配布

制作・編集：NHK大阪放送局、京都国立近代美術館
デザイン：シルシ
発行：NHK大阪放送局

新聞雑誌等関係記事

Articles

【新聞記事】

- 毎日：1月4日「芸術に触れよう 没後50年 鏗木清方展」
- 毎日：5月27日「鏗木清方 60年の画業」(谷田朋美)
- 毎日：5月21日「郷愁まとう東京御美人」(山田夢留)
- 毎日：6月2日「没後50年 鏗木清方展作品紹介(上) 模索期の〈会心の作〉」(小倉実子)
- 毎日：6月6日「没後50年 鏗木清方展作品紹介(中) 脳裏の築地明石町」(小倉実子)
- 京都民報第3033号：6月5日「女性の姿に清新な都会情緒」
- 毎日：6月9日「没後50年 鏗木清方展作品紹介(下) 自分にしか描けない〈東京〉」(小倉実子)
- 毎日：6月10日「没後50年 鏗木清方展 匂える恋情のドラマ」(山田夢留)
- 産経：6月14日「江戸情緒残る生活描く」(太田優)
- 毎日：6月20日「時代の変遷 女性像に投影」(南陽子)
- 毎日：6月23日(夕)「美しき明治へのオマージュ」(正木利和)
- 大阪日日：6月28日「美人画だけではない画業の全貌」(吉田肇)
- 読売：6月30日(夕)「〈幻の三部作〉関西初勢ぞろい」(小林直貴)
- 京都：7月2日「遠のく明治 追憶の目線」(前芝直介)



会場風景(撮影：河田憲政)

【雑誌記事その他】

- 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 520 (5-6月号)「鏗木清方、装いを描く目」(大久保尚子)
- 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 521 (7-8月号)「鏗木清方の底力—昭和・平成・令和を超えて—」(村田隆志)
- 美術展びあ2022年版「鏗木清方にはひたつ生」
- 完全ガイドシリーズ338 美術展完全ガイド2022「最注目展覧会」
- 芸術新潮2021年12月「美人画だけじゃない! プレない画家・鏗木清方」(はしもとゆうこ)
- 和楽2022年2・3月号No. 202「2022年は“大物”美術展ラッシュのスゴい年になるぞ! 空前絶後の大回顧展!」
- 和楽2022年4・5月号No.203「鏗木清方〈究極の美人画〉」
- 文教速報2022年6月6日第9131号「京近美で〈鏗木清方展〉」

生誕100年 清水九兵衛／六兵衛

KIYOMIZU Kyubey / Rokubey VII Retrospective

主催：京都国立近代美術館、京都新聞
 協力：株式会社キヨロク
 協賛：一般財団法人きょうと視覚文化振興財団
 会期：2022年7月30日(土)～9月25日(日) (50日間)
 入場者数：8,696人(一日平均：174人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, Kyoto Shimibun
 Cooperation: Kiyoroku Co., Ltd.
 Sponsorship: Kyoto Foundation for Visual Culture
 Dates: Saturday, July 30 - Sunday, September 25, 2022
 Visitors: 8,696 (174 per day)



ポスターデザイン：倉澤洋輝

日本中に設置された野外彫刻で知られる京都の彫刻家の清水九兵衛。一方で九兵衛は京焼の名家の清水六兵衛家の七代目としても活躍した。本展は、九兵衛と六兵衛という二つの顔を持ち、いずれにおいても高い評価を得た一人の造形作家の両面を紹介する初めての展覧会である。

清水は塚本竹十郎の三男として1922年に名古屋に生まれ、名古屋高等工業学校建築科を繰り上げて卒業後、召集され戦地に赴く。復員後、東京美術学校附属工芸技術講習所ならびに東京芸術大学彫金科で学び、1951年に清水家の六代六兵衛の養嗣子となり陶芸の道に進んだ。1950年代から60年代にかけては、日展で特選を連続して受賞するなど陶芸家として高い評価を得るが、「もの」と周囲の空間に対する関心が深まり、1966年に初めて彫刻作品を発表。1968年に九兵衛を名乗り、陶芸制作から離れ、アルミニウムを主な素材とする彫刻家へと転じた。しかし、1980年に六代六兵衛の急逝を受けて、翌年に七代六兵衛を襲名。2000年に代を譲るまで彫刻家と陶芸家の両分野で活躍した。

展覧会では、作家の代表作や関連資料を通じて立体造形作家としての生涯を回顧したが、展示空間において両者の関係性がわかるように、年代や造形的な共通性などに配慮して作品を配置した。また、展覧会に関連して図録を刊行したほか、京都市内に残る九兵衛の野外彫刻を紹介する「京の街角てくてく 九兵衛さんマップ」を作成した。

本展は、2022年4月13日から7月3日にかけて千葉市美術館でも開催された。

(大長智広)

Kiyomizu Kyubey was a sculptor from Kyoto whose outdoor sculptures are installed in numerous locations throughout Japan, and was also the seventh-generation head of the renowned Kiyomizu Rokubey family of Kyo-yaki (Kyoto ware) ceramicists. This exhibition was the first to showcase both sides of a single artist who had two identities – Kyubey and Rokubey – and earned high acclaim in both.

Kiyomizu, the third son of Tsukamoto Takejuro, was born in Nagoya in 1922. He graduated early from the architecture department of Nagoya Technical High School, and was then conscripted and dispatched to the front. After being discharged from the army, he studied in the Art-Crafts Course at Tokyo Fine Arts School and studied metal carving after the school was reorganized as Tokyo University of the Arts. In 1951, Kiyomizu entered the world of ceramics as the adopted heir of Kiyomizu Rokubey VI, and in the 1950s and 1960s he gained recognition as a ceramic artist, consistently winning awards at the Nitten (Japan Fine Arts Exhibition). However, he grew increasingly interested in relationships between objects and spaces, and in 1966, he showed his first sculptural works. In 1968, Kiyomizu adopted the name Kyubey, distanced himself from ceramics, and began devoting himself to sculpture, primarily made with aluminum.

After Rokubey VI suddenly died in 1980, Kiyomizu assumed the name Rokubey VII the following year. Until ceding the position to his successor in 2000, he was highly active in the fields of both sculpture and ceramics.

This retrospective traced the life of the versatile creator of three-dimensional art through his iconic works and archival materials. In the galleries, works were arranged in terms of chronology and sculptural similarities to elucidate the relationship between Kiyomizu's two identities. In conjunction with the exhibition, a catalogue was published and a Kyoto Street Map of Kyubey Works was prepared, enabling walking tours of his outdoor sculptures that can be seen in Kyoto.

The exhibition was also held at the Chiba City Museum of Art from April 13 to July 3, 2022.

(DAICHO Tomohiro)

カタログ

Exhibition Catalogue

日本語、英語：28×23 cm、371頁
 図版 カラー275点 モノクロ2点；参考図版 カラー1点 モノクロ79点

収録論文等

「六兵衛と九兵衛の間」清水九兵衛
 「五条坂」森野泰明(インタビュー)
 「清水さん」三代宮永東山(インタビュー)
 「彫刻家として」建島哲(インタビュー)
 「清水洋と七代六兵衛の陶芸」大長智広
 「彫刻家・清水九兵衛——「アフィニティ」、その内在と調和」森啓輔

構成・編集：大長智広(京都国立近代美術館)、森啓輔(千葉市美術館)、薬科英也(千葉市美術館)
 執筆：清水九兵衛(彫刻家、陶芸家)、森野泰明(陶芸家)、三代宮永東山(陶芸家)、建島哲(埼玉県立近代美術館長、多摩美術大学長)、大長智広、森啓輔、薬科英也
 翻訳：ベス・ケーリ、クリストファー・スティヴンズ
 デザイン：倉澤洋輝
 印刷・製本：株式会社ライブアートブックス
 発行：京都国立近代美術館
 ISBN：978-4-87-642218-0

鑑賞ガイド Self Guide

「京の街角てくてく 九兵衛さんマップ」
 日本語：42×29.7cm
 無料配布

イラスト：にしむらさちこ
 企画・発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

朝日：6月7日(夕) 美の履歴書79「傾く姿 重なって映るのは (CORRESPOND(刻印No.6)) 清水九兵衛」(大西若人)
 京都：7月29日「調和する異素材」(前芝直介)
 京都：7月30日「京焼から彫刻へ 異才回顧」(前芝直介)
 京都：8月22日「九兵衛作品巡るマップ」(林屋祐子)
 中日：8月26日「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」(松崎晃子)
 週刊京都市民報：9月4日「彫刻と陶芸 それぞれの到達」(深萱真穂)
 京都：9月5日「彫刻と陶芸、響き合う才能 京都国立近美」(林屋祐子)
 京都：9月10日「陶と彫刻、質感追求」(前芝直介)
 朝日：9月11日「質感の美 研ぎ澄ませ 陶芸と彫刻 日本の感性表現／手だけで鑑賞 ぶくらむ想像」(西田健作)
 京都：9月11日「陶器・彫刻 触ってみると？」(中塩路良平)
 読売：9月15日(夕)「京都 わたし流 陶芸家 八代清水六兵衛(上) 代々、独自の作風追求」(聞き手：森恭彦)
 読売：9月17日(夕)「京都 わたし流 陶芸家 八代清水六兵衛(下) 学んだ建築 形状に生きる」(聞き手：森恭彦)
 毎日：9月19日「陶土の運命と共に 素材超え理想探求 清水六兵衛／九兵衛 初の〈一作家〉展」(南陽子)



会場風景(撮影：今村裕司)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No. 521 (7-8月号)「清水九兵衛の容の美」(石崎尚)
 京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No. 522 (9-10月号)「清水九兵衛—陶芸と彫刻を統べる造形」(菊川亜騎)
 文化庁広報誌ぶんかる(Web)2022年6月24日アートダイアリー093「九兵衛と六兵衛をつなぐもの《生誕100年 清水九兵衛／六兵衛》展」(大長智広)
 陶業時報2022年8月1日「彫刻と陶芸の2分野で活躍 清水九兵衛／六兵衛」
 Leaf 2022年10・11月号「Leaf美術部 vol. 2 変貌自在! 名前もスタイルも変化させた天才」
 文教速報2022年8月10日第9156号「京近美で開幕《生誕100年 清水九兵衛／六兵衛》展」

ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡 ——市民が創った珠玉のコレクション

Museum Ludwig, Cologne — History of a Collection with Civic Commitments

主催：京都国立近代美術館、ルートヴィヒ美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、BS-TBS、京都新聞
 後援：ドイツ連邦共和国総領事館
 協賛：岩谷産業、損保ジャパン、ダイキン工業、竹中工務店、三井不動産
 会期：2022年10月14日(金)～2023年1月22日(日) (84日間)
 入場者数：44,186人(一日平均：526人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, Museum Ludwig, Cologne, Nikkei Inc., Television Osaka, Inc., BS-TBS, INC., The Kyoto Shimbun
 Support: Consulate General of the Federal Republic of Germany Osaka-Kobe
 Sponsorship: Iwatani Corporation, Sompo Japan Insurance Inc., DAIKIN INDUSTRIES, LTD., TAKENAKA CORPORATION, Mitsui Fudosan Co., Ltd.
 Dates: Friday, October 14, 2022 – Sunday, January 22, 2023
 Visitors: 44,186 (526 per day)

本展では、ドイツのルートヴィヒ美術館が所蔵する、20世紀初頭から現代までの優れた美術作品を紹介した。ケルン市運営のこの美術館のコレクションは、市民のコレクターたちによる寄贈を軸に形成されてきた。二度の世界大戦、東西ドイツへの分裂から統一にいたる激動の20世紀を生きた寄贈者たちは、同じ困難な現実に翻弄され、立ち向かい、社会の新しい息吹に鼓舞された、同時代の美術家たちに目を向け、彼らの作品を積極的に収集した。

ケルンにおける近代美術コレクションの礎を築いたヨーゼフ・ハウブリヒや、館名に名前を冠するペーター&イレネ・ルートヴィヒ夫妻をはじめとするコレクターたちに焦点をあてた本展は、次の章立てによって構成された：「序章：ルートヴィヒ美術館とその支援者たち」「1章：ドイツ・モダニズム—新たな芸術表現を求めて」「2章：ロシア・アヴァンギャルド—芸術における革命的革新」「3章：ピカソとその周辺—色と形の解放」「4章：シュルレアリスムから抽象へ—大戦後のヨーロッパとアメリカ」「5章：ポップ・アートと日常のリアリティ」「6章：前衛芸術の諸相—1960年代を中心に」「7章：拡張する美術—1970年代から今日まで」。3階企画展会場に加えて、4階コレクション・ギャラリーの一部そして1階ロビーを使って、絵画、彫刻、写真、映像を含む代表作152点[一部は東京会場のみ]を展示し、キャプションには作品の寄贈者名と時期を明記した。

開催館そしてルートヴィヒ美術館の担当キュレーターが密に連携し企画した本展の目的は、美術館と市民との生きた交流を明らかにし、社会における美術館の意義と役割を見つめなおす契機を提供す

This exhibition showcased exceptional works of art, dating from the early 20th century to the present day, from the collection of Museum Ludwig. The collection of this museum, overseen by the city of Cologne, has been shaped by donations from citizen collectors. These donors, who lived through the tumultuous 20th century including two world wars and the partition and reunification of East and West Germany, turned their eyes to contemporary artists of their time and actively collected their works. These artists faced the same challenging realities, grappled with them, and drew inspiration from the winds of societal change.

Focusing on collectors such as Josef Haubrich, who laid the foundation for a modern art collection in Cologne, and Peter Ludwig and his wife Irene, after whom the museum is named, the exhibition was divided into the following sections. Introduction: Museum Ludwig and its Supporters, Chapter 1: German Modernism — Looking for the New Artistic Expression, Chapter 2: Russian Avant-garde — Revolutionary Innovation in the Arts, Chapter 3: Pablo Picasso and His Environment — Liberation in Color and Form, Chapter 4: From Surreal Creation to Abstraction — Postwar Movements in Europe and America, Chapter 5: Pop Art and Everyday Reality, Chapter 6: Aspects of Avant-garde Art in the 1960s, and Chapter 7: Expanding the Frame of Art from the 1970s to Today. In addition to the 3rd-floor special exhibition gallery, parts of the 4th-floor collection gallery and the 1st-floor lobby showcased 152 exemplary works, including paintings, sculptures, photographs, and videos [some exhibited only in the Tokyo venue]. Captions clearly stated the donors' names and date of donation.

The aim of the exhibition, organized with close cooperation between curators from the two museums where it was held in Japan and the Museum Ludwig, was to illuminate vibrant interchange between museums and



ポスターデザイン：田口英之・田部井ゆい子 (RAM)

ることであった。また本展は、20世紀美術を通覧できる貴重な機会として、作品解説に詳細な来歴情報を付した展覧会図録の内容ともども、専門家を含む大勢から高い評価を得ることができた。

本展は、2022年6月29日から9月26日まで国立新美術館で開催された後、当館に巡回した。
(池田祐子)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：30×23cm、275頁
 図版 カラー152点、モノクロ152点；参考図版 モノクロ10点

収録論文等

「ルートヴィヒ美術館、市民と繋がる市の美術館」 イルマーズ・ズィヴィオー、シュテファン・ディーデリヒ
 「ルートヴィヒ美術館の写真」 ミリアム・スヴァスト
 「近代美術のコレクターと美術館——ハウブリヒ・コレクションとその背景をめぐって」 池田祐子
 「ペーター&イレネ・ルートヴィヒの同時代への視点——東西を架橋したコレクター」 長屋光枝

編集：国立新美術館、京都国立近代美術館、日本経済新聞社文化事業部
 執筆：池田祐子(京都国立近代美術館)、亀田晃輔(国立新美術館)、イルマーズ・ズィヴィオー(ルートヴィヒ美術館)、ミリアム・スヴァスト(ルートヴィヒ美術館)、杉本渚(国立新美術館)、シュテファン・ディーデリヒ(ルートヴィヒ美術館)、長屋光枝(国立新美術館)、牧口千夏(京都国立近代美術館)
 翻訳：古川真宏、杉山あかね(以上、独文和訳)、アンナ・プライロフスキー、ニヴェネ・ラファト(以上、独文英訳)、ベス・ケーリ、クリストファー・スティヴンス、エクシム・インターナショナル(以上、和文英訳)
 デザイン：田口英之、田部井ゆい子(RAM)
 制作：印象社 印刷・製本：サンニチ印刷
 発行：日本経済新聞社
 ISBN：978-4-90-724322-7

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

日経：7月22日「市民が創ったコレクション」
 京都：10月8日「20世紀のドイツアート紹介」
 京都：10月13日「新時代の息吹」(三村智哉)
 京都：10月14日「市民コレクター 珠玉の142点」(三村智哉)
 日経：10月17日「ルートヴィヒ美術館展 京都 欧州屈指のポップアート」
 日経：10月21日「ルートヴィヒ美術館展、ピカソなど140点」
 毎日：11月16日「市民収集家が注いだ熱」(山田夢留)
 京都：11月19日「戦下、作品守った市民の力」(三村智哉)
 日経：11月21日「ルートヴィヒ美術館展 京都 ピカソ晩年の作品を紹介」
 産経：12月2日(夕)「自分だけの名品見つける」(正木利和)
 読売：12月10日(夕)「ピカソやウォーホル 市民 寄贈で支える」(淵上えり子)
 日経：12月19日「ルートヴィヒ美術館 京都 消された歴史、市民が復活」
 京都：12月24日「京滋美術界 この1年 制約下 表現できる尊さ再確認」(三村智哉、河村亮)
 京都：12月25日「《ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡 市民

citizens and offer opportunities to re-examine the social significance and role of museums. The exhibition also served as a valuable and comprehensive overview of 20th-century art, and was highly praised by many, including experts, in part for the detailed provenance information in the exhibition catalogue.

The exhibition was also held at the National Art Center, Tokyo, from June 29 to September 26, 2022 before its rund at this museum.

(IKEDA Yuko)



会場風景(撮影：河田恵政)

が創った珠玉のコレクション》 社会つくる 市民の能動姿勢」(林屋祐子)
 京都：12月26日「ひと味違うポップ・アート ルートヴィヒ美術館展」(林屋祐子)
 朝日：1月12日(夕)「コレクターが作った現代アート史」(加藤義夫)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 522(9-10月号)「ヴォルスードイツ／フランス、戦中／戦後をつなぐ架け橋 「ルートヴィヒ美術館展」によせて」(河本真理)
 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 524(1-2月号)「美術の公共性—その見えざる「かたち」を想う」(三木順子)
 完全ガイドシリーズ338 美術展完全ガイド2022「最注目美術展」
 ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック2022-2023「山田五郎の解説付き！2022年、これは見逃せない展覧会セレクト」
 NHK京都NEWS WEB:10月19日「京都国立近代美術館で《ルートヴィヒ美術館展》」
 文教速報 2022年10月28日 第9185号「京近美〈ルートヴィヒ美術館展〉が開幕」

リュイユ——フィンランドのテキスタイル： トゥオマス・ソパネン・コレクション

Modern Finnish Ryijy Textiles from the Tuomas Sopenen Collection

主催：京都国立近代美術館
後援：フィンランド大使館
助成：フィンランド文化財団、スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団
会期：2023年1月28日(土)～4月16日(日) (68日間)
入場者数：26,349人(一日平均：387人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto
Support: Embassy of Finland, Tokyo
Grant: The Finnish Cultural Foundation, The Scandinavia-Japan Sasakawa Foundation
Dates: Saturday, January 28 - Sunday, April 16, 2023
Visitors: 26,349 (387 per day)

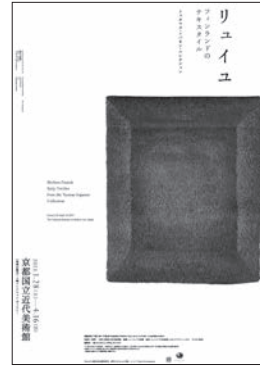
本展は、フィンランド在住のトゥオマス・ソパネン氏が所蔵するリュイユを、日本で初めて紹介する展覧会として開催された。

リュイユとは、15世紀にはすでに寝具として文献に記述が見られる、フィンランドの毛足の長い織物である。1900年のパリ万博で、画家のアクセリ・ガッレン＝カッレラがアール・ヌーヴォーの影響を受けたデザインを制作したことはリュイユの転換点とされ、以後アーティストがデザインに関わるようになっていく。1950年代には、フィンランドのガラスや陶芸と同様に、ミラノ・トリエンナーレで受賞を重ねるなど、国際的にも高く評価された。現在では、作家が自ら手掛ける作品も多く、造形や素材は多様化して表現の幅はより広がりを見せている。今回は、こうした現代作品までを含むコレクションの特徴を踏まえ、主に1950年代以降の、特に色彩表現豊かな作品47点を展示した。

また、1976年の「今日の造形(織)ーヨーロッパと日本ー」展に出品され、当館に所蔵されたイルマ・クッカスヤルヴィによる2点の作品も合わせて展示した。同展は、「ファイバー・ワーク」として立体造形へと展開する、染織の新たな動向を紹介した展覧会として画期的なもので、異なる文脈で収蔵されたリュイユと一緒に展示することで、単線的なりユイユ史の語りに別の視点を提示した。

助成を受けて日英2か国語で刊行した展覧会図録は、これまで日本語で読めるリュイユの文献がなかったこともあり、好評を博し増刷した。なお本展は当館終了後、4月29日から7月17日まで、東根市美術館(山形)に巡回した。

(宮川智美)



ポスターデザイン：上田英司(シルシ)

This exhibition showcased ryijy textiles from the collection of Tuomas Sopenen of Finland, which were presented for the first time in Japan.

Ryijy are long-pile Finnish textiles which can be found described as bedding in documents from as early as the 15th century. A turning point for these textiles came with the presentation of Art Nouveau-influenced works by the painter Akseli Gallen-Kallela at the 1900 Paris world Exposition, after which artists became increasingly involved in design of the textiles. In the 1950s, ryijy textiles garnered international acclaim much like Finland's glass and ceramics, repeatedly winning awards at the Milan Triennale. Today, many ryijy pieces are handcrafted by artists, encompassing a more diverse range of styles and materials and a wider range of expressions. This exhibition featured 47 works, mostly dating from the 1950s and later and including contemporary works that characterize the Sopenen collection, with a particular emphasis on usage of vibrant colors.

Among the pieces on view were two by Irm Kukkasjarvi, which were shown in the 1976 exhibition Fiber Works: Europe and Japan and are part of our collection. The 1976 show was groundbreaking as it introduced a new trend in textiles developed into three-dimensional forms, which was termed "fiber work," and by showcasing ryijy that had been acquired in different contexts alongside these works, it offered fresh perspectives on the historical progression of ryijy.

Thanks to receipt of funding, the exhibition catalogue was published in both Japanese and English. Given the absence of Japanese literature on ryijy up to that point, the catalogue was enthusiastically received and went through additional printings. After its run at this museum, the exhibition traveled to the Higashine Art Museum in Yamagata from April 29 to July 17.

(MIYAGAWA Tomomi)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：28×22cm、111頁
図版 カラー49点；参考図版 カラー16点、モノクロ10点

収録論文等

「フィンランド・リュイユ小史」トゥオマス・ソパネン
「A Short History of the Finnish Ryijy」Tuomas Sopenen
「素晴らしきアートを振り返って：1930年代から60年代のモダン・リュイユ」ハッリ・カルハ
「In Remembrance of a Remarkable Art: The Modern RYIJY, 1930s–1960s」Harri Kalha
「リュイユを現代に繋ぐ視点——トゥオマス・ソパネン・コレクション」宮川智美
「A Perspective on Ryijy; Connecting Past and Present — The Tuomas Sopenen Collection」Tomomi Miyagawa

編集：宮川智美(京都国立近代美術館)
執筆：トゥオマス・ソパネン、ハッリ・カルハ(美術史家)、宮川智美
翻訳：マーティ・イェリネク(和文英訳)、川西典子(英文和訳)
デザイン：上田英司(シルシ)
印刷：株式会社サンエムカラー
発行：京都国立近代美術館
ISBN：978-4-87-642219-7

TV・ラジオ関係放送 TV, Radio

J-WAVE ACROSS THE SKY：2023年1月29日午前9時～正午

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

朝日：3月16日(夕)「美術評 リュイユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション みる距離で違う豊かな表情」(加藤義夫)
産経：3月31日(夕)「デザイン大国の誇り40点を初公開」(正木利和)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 525 (3-4月号)「アクセリ・ガッレン＝カッレラとリュイユ《炎》」(本橋弥生)
美術手帖(ウェブ版)2022年10月26日「フィンランド・デザインの織物「リュイユ」の魅力に迫る展覧会。京都国立近代美術館で開催へ」(編集部)
芸術新潮 2022年12月号 No. 876 「2023年、これだけは見ておきたい美術展 はおり、まとい、かざる。世界の手工芸」(構成・文 矢部智子)



会場風景(撮影：渚忠之)

Discover Japan 2023年2月号 No. 50 「フィンランドのテキスタイルリュイユとは何だ？」
目の眼 2023年2月号 No. 557 「デザイン王国フィンランドが誇る、テキスタイルの歴史と現在(いま)」/展覧会情報
anan 2023年2月 No. 2333 「Art リュイユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション」(山田貴美子)
美術展ナビ 2023年2月11日 【レビュー】 北欧の織物「リュイユ」とは？「リュイユーフィンランドのテキスタイル」京都国立近代美術館で4月16日まで」(いづみゆか)
リンネル 2023年2月 No. 180 「ART&EVENT フィンランドのテキスタイル・アートの変遷をたどる」(赤木真弓)
Pen 2023年3月 No. 538 「DESIGN 古典から近現代へ進化を続ける、フィンランドの織物アート」(猪飼尚司)
Confort 2023年4月 No. 190 「色鮮やかな色相、日本初公開のコレクション」(谷口三千代)

甲斐荘楠音の全貌

——絵画、演劇、映画を越境する個性

KAINOSHO Tadaoto: Crossing Boundaries in Nihonga, Theater and Film

主催：京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞
協賛：高砂香料工業
特別協力：東映、東映太秦映画村
協力：国際日本文化研究センター、京都日本文化資源研究所
会期：2023年2月11日(土・祝)～4月9日(日) (50日間)
入場者数：23,909人(一日平均：478人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, The Nikkei Inc., The Kyoto Shimbun
Sponsorship: TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION
Special cooperation: TOEI, TOEI KYOTO STUDIO PARK
Cooperation: The International Research Center for Japanese Studies, INSTITUTE OF JAPANESE CULTURAL RESOURCES KYOTO
Dates: Saturday & Holiday, February 11 - Sunday, April 9, 2023
Visitors: 23,909 (478 per day)



ポスターデザイン：三木俊一(文京図案室)

本展では、様々な領域を越境した表現者・甲斐荘(または甲斐庄)楠音(1894-1978)の生涯にわたる創作の全貌を回顧した。

大正から昭和にかけて活躍した京都の日本画家、甲斐荘の回顧展を当館が開催するのは、1997年に続いて2度目となる。26年前の展覧会は、国画創作協会の個性派として活躍し、美醜を併せ呑んだ人間の生を描いて脚光を浴びた時期の名作を中心に、彼の初期から晩期まで日本画家としての生涯をたどった。しかし1940年代初頭に画壇を離れた彼の後半生は、京都太秦の映画撮影所で時代劇の衣裳考証・風俗考証を手がけ、娯楽映画に芸術性を添えた映画人としての活躍によって彩られていた。前回の展覧会では十分に上げることのできなかったその側面についても、近年、彼が市川右太衛門のため考証した衣裳の現存が太秦の東映で大量に確認されたことで漸く明らかになろうとしている。

本展では、日本画家と映画人という2面から甲斐荘という芸術家に迫った。また、その2面をつなぐ要素として、新発見の膨大なスケッチ資料群等も取り上げ、肉体の生を捉えることへの彼のこだわりや芝居への情熱にも改めて着目した。序章「描く人」、第1章「こだわる人」、第2章「演じる人」、第3章「越境する人」、終章「数奇な人」の5章構成により、演じること・扮することへの関心の表出として彼の芸術の全体像を見詰め直す内容となった。

(梶岡秀一)

This retrospective traced the entirety of the lifelong creative endeavors of Kainosho Tadaoto (1894-1978), an artist who worked in a wide range of fields and media.

This was the museum's second retrospective of Kainosho, a Nihonga (Japanese-style painting) artist active in Kyoto in the Taisho (1912-1926) and Showa (1926-1989) eras, following a previous exhibition in 1997. The exhibition 26 years earlier followed the arc of his career as a Nihonga painter, with a focus on masterworks from his time as an individualistic member of the Kokuga Sosaku Kyokai (National Painting Creation Association) that were acclaimed for their depiction of human life embracing both the beautiful and the ugly. However, after he stepped away from the art world in the early 1940s, the latter part of his life was characterized by his contributions to the film industry. At the movie studios of Uzumasa in Kyoto, he was placed in charge of the historical accuracy of costumes and customs, bringing artistic flair to entertainment-oriented period films. It was not possible for the previous exhibition to sufficiently address his film work, but recent discoveries of a large number of costumes he designed for Ichikawa Utaemon at Toei in Uzumasa are shedding new light on this fascinating chapter of his career.

This exhibition explored the work of Kainosho from two vantage points: as a Nihonga painter and as a film industry figure. By incorporating a huge number of newly discovered sketches and other materials, the exhibition focused on his dedication to capturing the essence of human life and his passion for theater. It was divided into five sections (Prologue: Kainosho the Painter, Chapter 1: Kainosho the Stickler, Chapter 2: Kainosho the Performer, Chapter 3: Kainosho the Boundary Crosser, and Epilogue: Kainosho the Wanderer), and strove to present a full picture of his art as a manifestation of his enduring interest in acting and impersonation.

(KAJIOKA Shuichi)

カタログ

Exhibition Catalogue

日本語、英語：30×22cm、307頁
図版 カラー344点；参考図版 カラー3点、モノクロ14点

収録論文等

「さまざまに越境し混交する個性 甲斐荘楠音をめぐる現在地」池田祐子
「コラム1 市川右太衛門との出会い」山口記弘
「コラム2 パリッ子を魅了した着物——映画「旗本退屈男」の衣裳(1)」石川肇
「コラム3 殺陣のためのつくり込み——映画「旗本退屈男」の衣裳(2)」石川肇
「コラム4 茶人・甲斐荘楠音の交遊」太田梨紗子
「肌香を聞く 甲斐荘楠音スケッチ群の楽しみ」梶岡秀一
「甲斐荘楠音の絵画と衣裳について あらゆるさかいをまぎらかす」太田梨紗子
「果たして「女」は写真となるか、絵となるか 甲斐荘楠音の表現活動における扮装写真とモデル写真の位置」若山満大
「映画人・甲斐荘楠音の足跡と功績」山口記弘

執筆：池田祐子(京都国立近代美術館)、梶岡秀一(京都国立近代美術館)、若山満大(東京ステーションギャラリー)、山口記弘(東映株式会社)、石川肇(京都日本文化資源研究所)、太田梨紗子(日本美術史研究者)
翻訳：小川紀久子、ベス・ケリー、太田聡、ウォルター・ハミルトン、池田祐子
編集：羽鳥綾(東京ステーションギャラリー)
編集協力：堀川夢(左右社)、三上真由(左右社)、日本経済新聞社 文化事業局文化事業部
デザイン：三木俊一(文京図案室)
印刷・製本：日本写真印刷コミュニケーションズ
発行：日本経済新聞社
ISBN: 978-4-90-724324-1

新聞雑誌等関係記事

Articles

【新聞記事】

日経：2023年1月3日「ジャンル超え 異色の個性」
産経：1月4日(夕)「甲斐荘楠音・島成園…コロナ禍で「毒」求める!? 怪しい美人の当たり年」(正木利和)
京都：1月4日「アートの泉 2023年本社文化事業」
京都：2月11日「甲斐荘楠音の世界 観客魅了」(三村智哉)
日経：2月20日「『甲斐荘楠音の全貌』展 ジャンル越境 異才の野心 興行と神秘性 巧みに描写」
公明：2月22日「『甲斐荘楠音の全貌』展 演じ、扮し、着飾る」(梶岡秀一)
京都：2月25日「奥底の感情や生き様描く」(三村智哉)
京都：2月26日「凡語」
京都：2月27日「京都映画界、衣装で支えた甲斐荘楠音展」(林屋祐子)
毎日：2月27日(夕)「『越境』する美の探求者 絵画、演劇、映画 多彩な活動回顧」(山田夢留)
日経：3月2日「悪魔的な妖艶・官能描く 歌舞伎や文楽から着想／昭和の映画衣装 絢爛に 邦画全盛期に230本指南」(編集委員 岡松卓也)
読売：3月2日(夕)「甲斐荘楠音 越境する才能 京都で回顧展 日本画から映画界に転身」(持丸直子)
京都：3月12日「大衆娯楽の美、衣装で顕現」(林屋祐子)
朝日：3月14日(夕)「越境する美意識 甲斐荘楠音の全貌 洗練にあらがう美人画 女形への傾倒 映画衣装」(松沢奈々子)
日経：3月20日「『甲斐荘楠音の全貌』展 黄金期の映画衣装 古典柄をモダンに」
産経：3月24日(夕)「甲斐荘楠音の全貌展 京都国立近代美術館 異才に時代が追いついた」(正木利和)



会場風景(撮影:河田憲政)

京都：3月31日「自由な感性 表現者の実力 日本画家・甲斐荘楠音 映画・ファッション史の視点 異才として再評価」(佐久間卓也)
毎日：4月3日「日本画家 衣装プロデューサー 異才 二つの「顔」 統合」(南陽子)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 524 (1-2月号)「甲斐荘家の幕末維新」(鈴木隆)
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 525 (3-4月号)「甲斐荘楠音展：絵画・演劇・映画を越境する個性」(アンネグレート・ベルクマン)
美術の窓 2022年12月号 No. 471「あやしいだけじゃない! 越境する情熱と研究心に迫る!」
芸術新潮 2022年12月号「妖しい絵だけではあらず! 演じて、描いた表現者・甲斐荘楠音」
美術展びあ 2023 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性
美術の窓 2023年2月号 No. 473 PREVIEW/全国展覧会スケジュール表
文教速報 2023年2月27日 第9230号「京近美開館60周年記念(甲斐荘楠音の全貌)展が開幕」
文教ニュース 2023年2月27日 第2740号「京都国立近代美術館〈甲斐荘楠音〉展開幕」
京都画廊連合会ニュース 2023年2月 No. 574「絵画、演劇、映画を越境する個性 開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌」
「須田記念 視覚の現場」第8号 2023年3月31日「甲斐荘楠音の絵を巡って」(星野桂三)

新収蔵品
New Acquisitions

令和4年度に購入した美術作品は、日本画3点、油彩1点、版画10点、彫刻5点、陶芸58点、漆工1点、ガラス3点、染織5点、資料4点、その他30点であり、寄贈を受けた美術作品は、日本画33点、油彩1点、素描3点、陶芸17点、漆工14点、竹工6点、染織18点、人形4点、資料11点、その他6点であった。

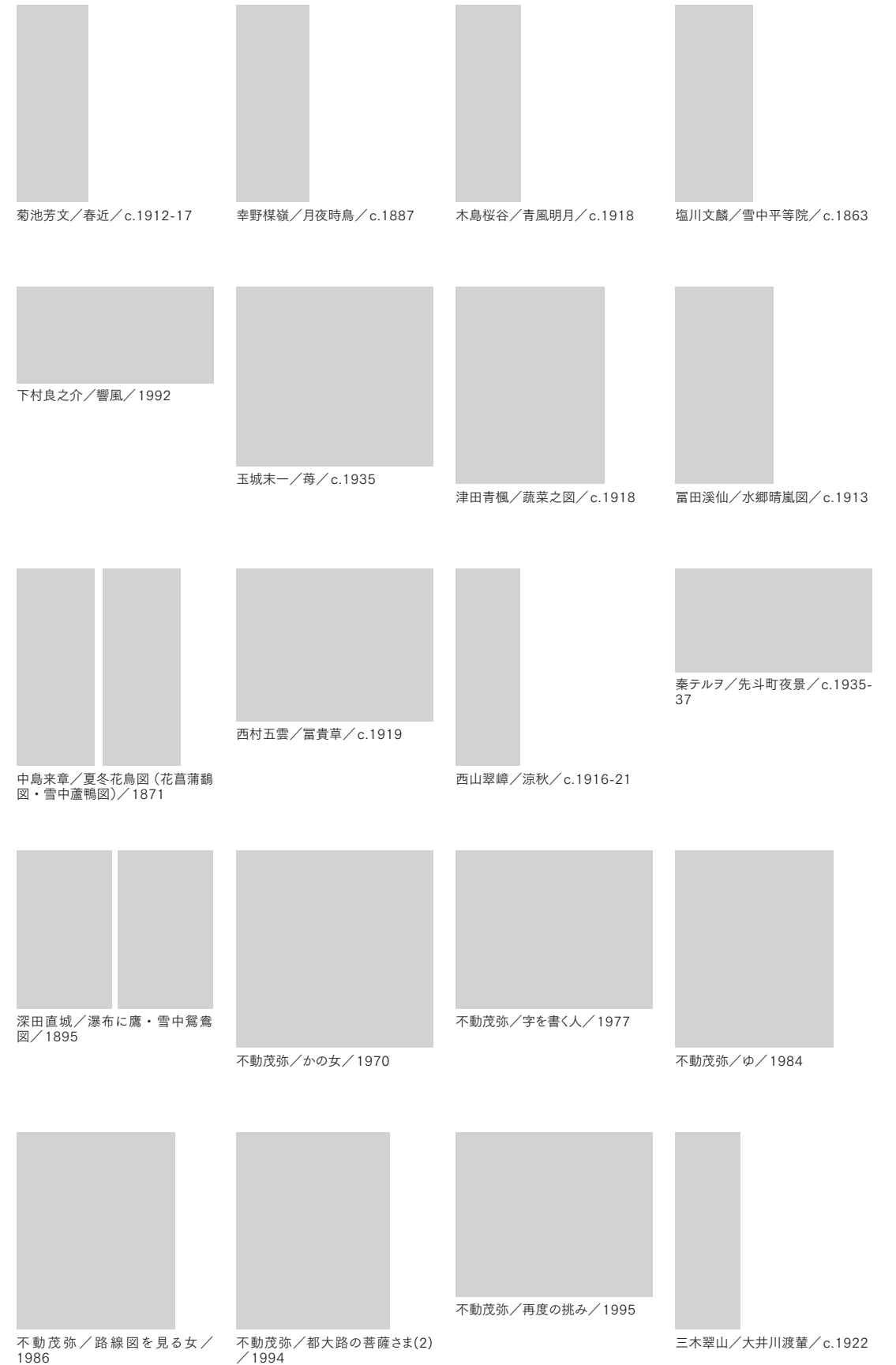
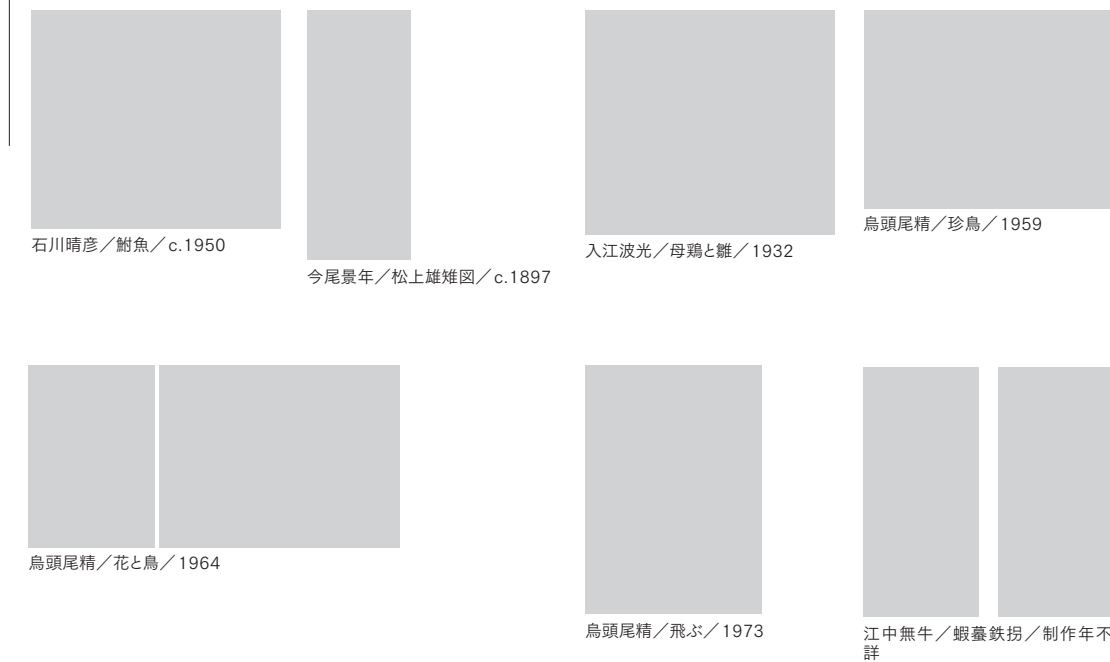
この結果、令和4年度末までの本館収蔵作品の累計は、日本画1,204点、油彩757点、水彩355点、素描1,330点、版画3,303点、彫刻113点、陶芸1,816点、金工159点、漆工189点、木工59点、竹工13点、ガラス121点、染織771点、人形6点、ジュエリー101点、書84点、写真1,969点、資料2,688点、その他779点の総計15,817点となった。

The National Museum of Modern Art, Kyoto acquired the following works in the fiscal year of 2022 (April 1, 2022–March 31, 2023). Purchases: 3 Nihonga, or Japanese-style paintings, 1 oil painting, 10 prints, 5 sculptures, 58 ceramics, 1 lacquer work, 3 glass works, 5 textiles, 4 reference materials and 30 Non-Category works. Donations: 33 Japanese-style paintings, 1 oil painting, 3 drawings, 17 ceramics, 14 lacquer works, 6 bamboo works, 18 textiles, 4 dolls, 11 reference materials and 6 Non-Category works.

The total number of works in the collection of the Museum as of the end of the fiscal year of 2022 is 15,817; 1,204 Japanese-style paintings, 757 oil paintings, 355 watercolors, 1,330 drawings, 3,303 prints, 113 sculptures, 1,816 ceramics, 159 metal works, 189 lacquer works, 59 wood works, 13 bamboo works, 121 glass works, 771 textiles, 6 dolls, 101 jewelry works, 84 calligraphies, 1,969 photographs, 2,688 reference materials and 779 Non-Category works.

新収蔵品目録
New Acquisitions List

日本画 Japanese-style paintings

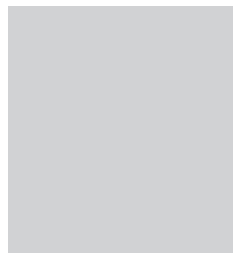




棟方志功/御鷹々の図/1951



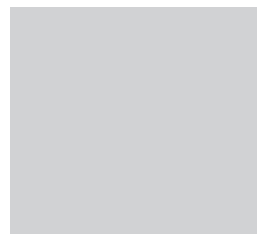
山口華楊/月夜野/1971



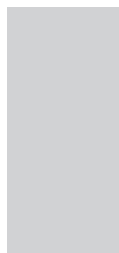
山崎隆/(絵専卒業制作)/1936



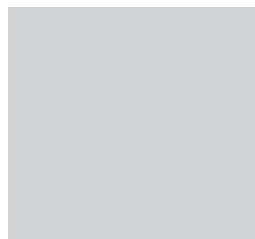
山崎隆/(冬景色)/1936-44



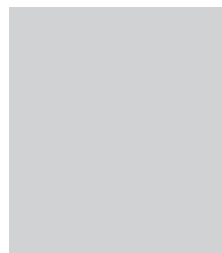
山崎隆/生物/1946-55



山崎隆/作品(E)/1952



山崎隆/作品A/1956

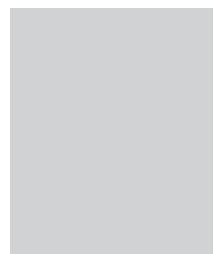


山崎隆/集/1971



山崎隆/(題名不詳)/1975

油彩 Oil paintings



小出権重/裸女結髪/1927



須田国太郎/御堂/制作年不詳

素描 Drawings



須田国太郎/海亀/1940



須田国太郎/スケッチブック9冊/1943-55



須田国太郎/能楽スケッチ集/1946前後

版画 Prints



八木一夫/版画(A)/1965



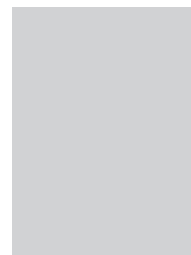
八木一夫/版画(B)/1965



八木一夫/版画(C)/1965



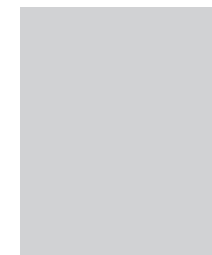
八木一夫/版画(D)/1965



八木一夫/版画(E)/1965



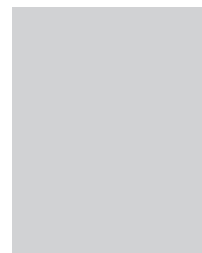
八木一夫/木版画A/1975



八木一夫/木版画B/1975



八木一夫/木版画C/1975

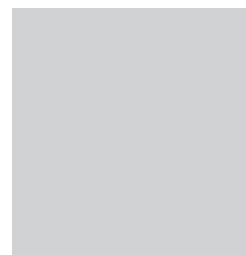


八木一夫/木版画D/1975



八木一夫/木版画E/1975

彫刻 Sculptures



八木一夫/熊/1935



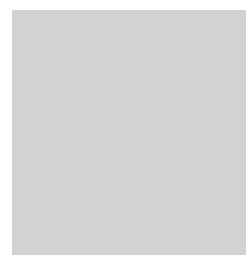
八木一夫/作品/1969



八木一夫/呪者/1969

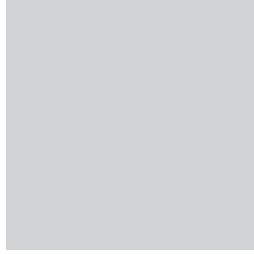


八木一夫/肖像あるいは鏡/1969

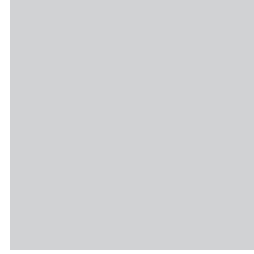


八木一夫/融合への分離/1969

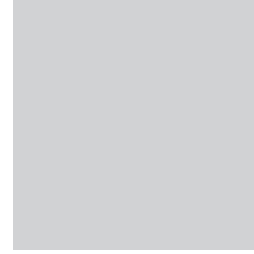
陶芸 Ceramics



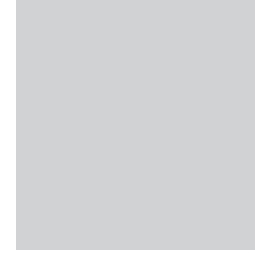
今井政之／象嵌彩 能面 器／
c. 1957



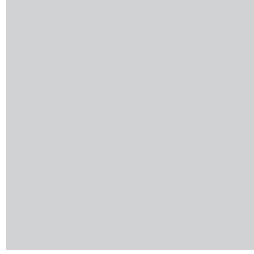
今井政之／象嵌彩悠念花壺／
1976



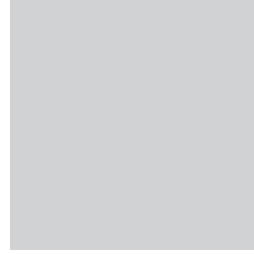
今井政之／象嵌彩窯変丸紋椿大
皿／1995



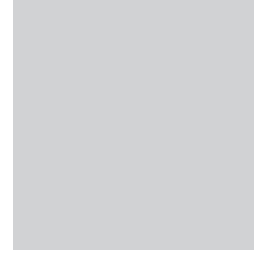
河井寛次郎／愛染鳥子／c.1920



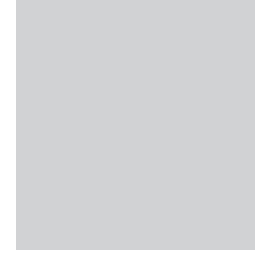
北大路魯山人／紅志野茶碗／
1945-59



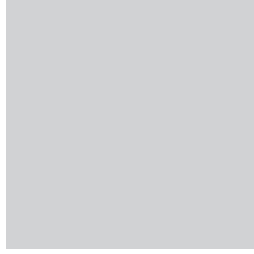
鈴木康之／芽／1947



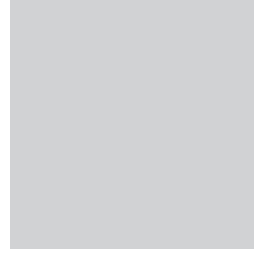
林康夫／作品／1966



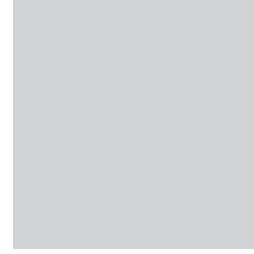
林康夫／Protuberant (B)／
1974



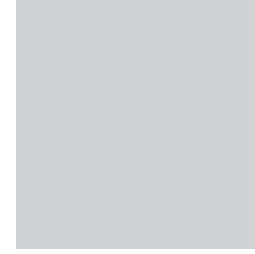
林康夫／横へ／1988



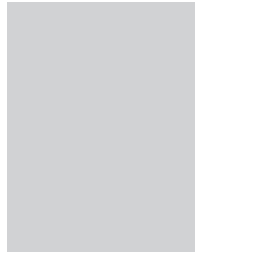
林康夫／星天の位置A／2002



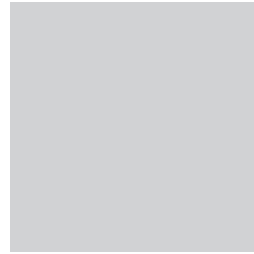
林康夫／寓舎 刻韻'06／2006



林康夫／寓舎 陳者II／2011



深見陶治／屹／2013



富士原恒宣／白瓷壺／1980～
90年代



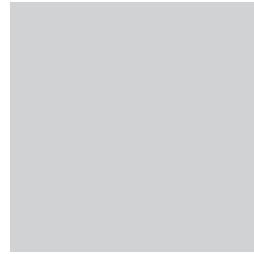
富士原恒宣／白瓷壺／1980～
90年代



富士原恒宣／白瓷捺面取壺／
1980～90年代



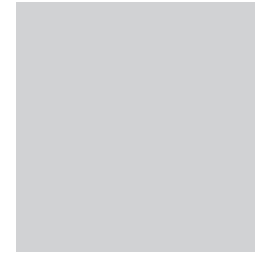
富士原恒宣／白瓷扁壺／1980～
90年代



三輪壽雪（十一代休雪）／萩灰被
水指／1967-82



エンリック・メストレ／作品／2009



八木一夫／陶彫 猫／c.1938



八木一夫／鳥／c.1938



八木一夫／野兔の陶彫／1939



八木一夫／作品／1940～50年
代



八木一夫／鉄象嵌壺／1940～
50年代



八木一夫／三島手によるヴァリエシ
オン／19420



八木一夫／三島手花器／c.1942



八木一夫／搔落向日葵図壺／
1947



八木一夫／春の海／1947



八木一夫／春の海／1947



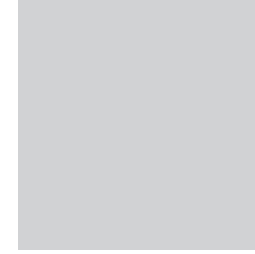
八木一夫／白化粧鉄絵壺／
c.1948



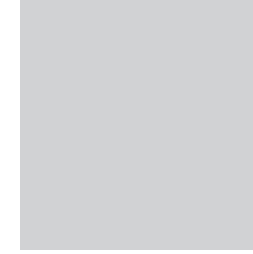
八木一夫／白化粧鉄絵壺／
c.1948



八木一夫／鉄象嵌一輪指／1949



八木一夫／ザムザ氏の散歩／
1954



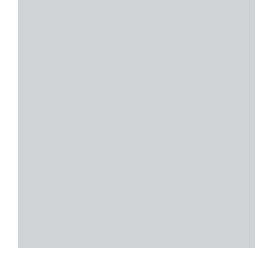
八木一夫／月／1954



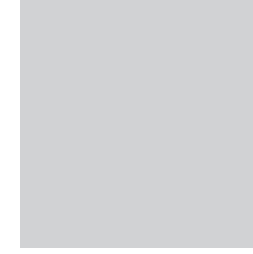
八木一夫／作品／c.1954



八木一夫／黒陶作品／1957



八木一夫／歩行／1957



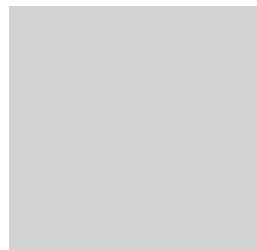
八木一夫／霧に触れる顔／1960



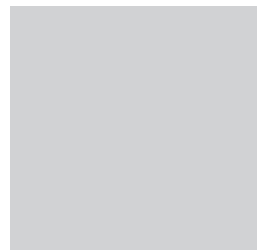
八木一夫／黒陶作品／1960年代



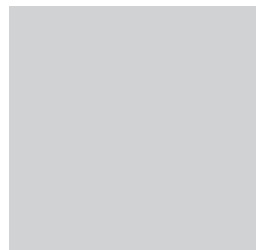
八木一夫／金彩装ったオブジェ／
1963



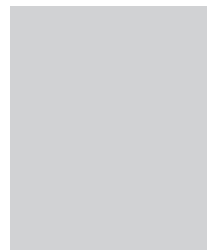
八木一夫／黄禍／1963



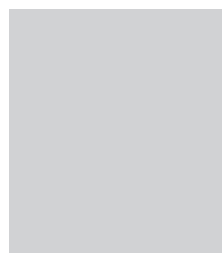
八木一夫／衣／1963



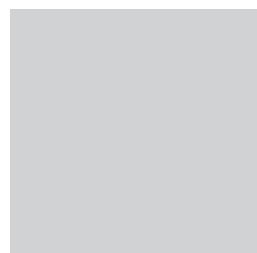
八木一夫／壁体／1963



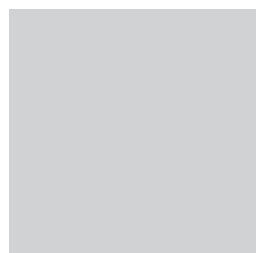
八木一夫／盲亀／1963



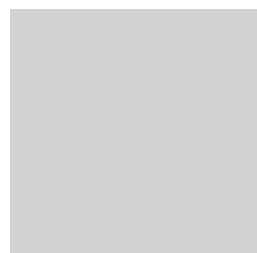
八木一夫／鏡／1964



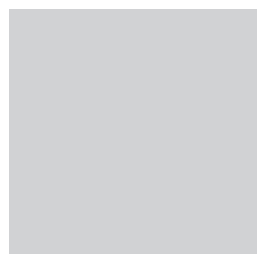
八木一夫／小町のギブス／1964



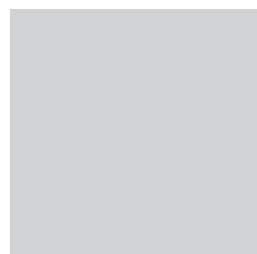
八木一夫／作品／1964



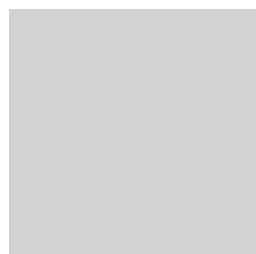
八木一夫／壁体／1964



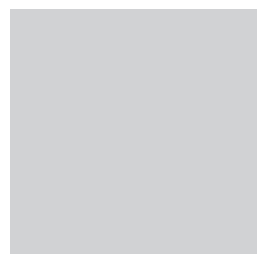
八木一夫／壁体／1964



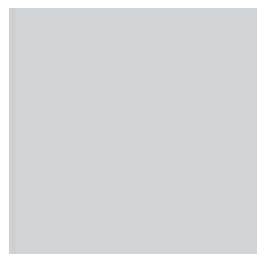
八木一夫／信楽長壺／c.1966



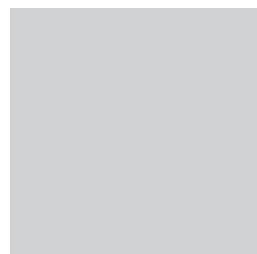
八木一夫／白い箱／1971



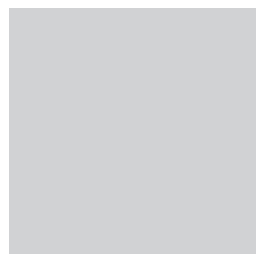
八木一夫／黒の波／1972



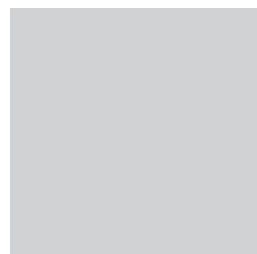
八木一夫／亀／1973



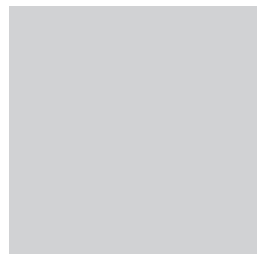
八木一夫／衣A／1973



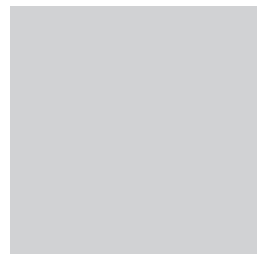
八木一夫／衣B／1973



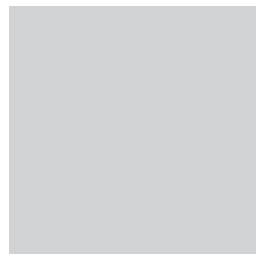
八木一夫／動機について／1973



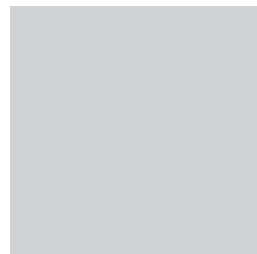
八木一夫／黒陶作品／c.1973



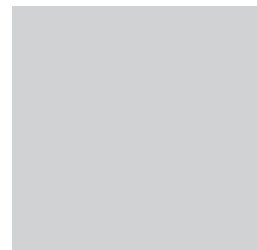
八木一夫／示／1974



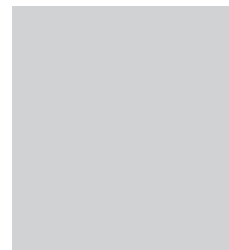
八木一夫／密着の距離／1974



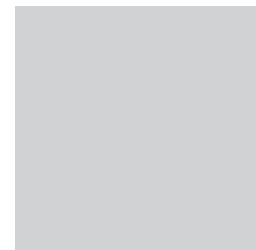
八木一夫／缶相／1975



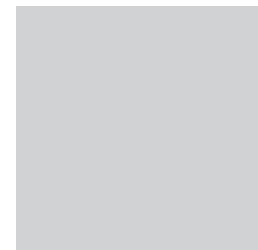
八木一夫／三角／1975



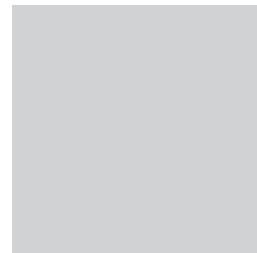
八木一夫／至福／1975



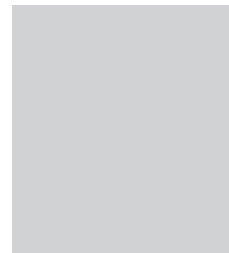
八木一夫／堆積／1975



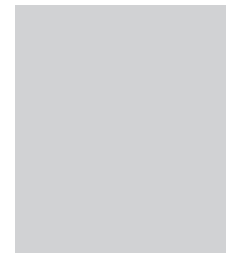
八木一夫／発掘C／1975



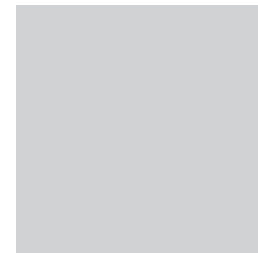
八木一夫／方円図絵壺／1975



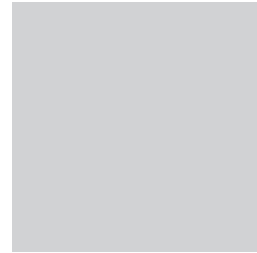
八木一夫／黒陶作品／c.1977



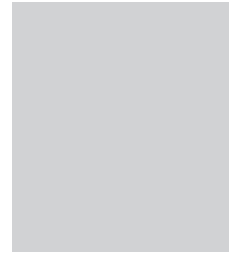
八木一夫／黒陶作品／c.1977



八木一夫／黒陶作品／c.1977



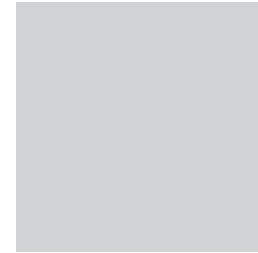
八木一夫／黒陶作品／c.1977



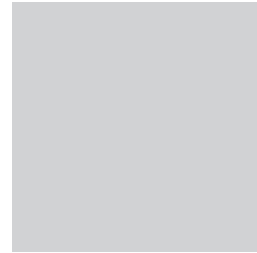
八木一夫／教義／1978



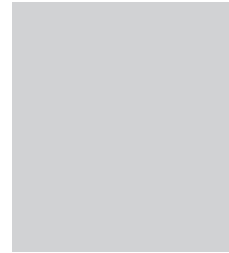
八木一夫／陶斧／1978



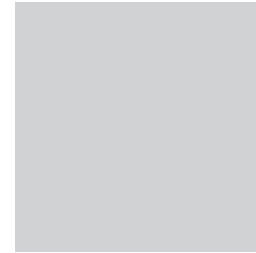
八木一夫／面目／1978



樂直入／焼貫黒樂茶碗〈嶺色千重〉／1989

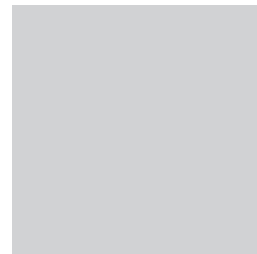


キティ・リックス(案)／騎手と二頭の馬／1928

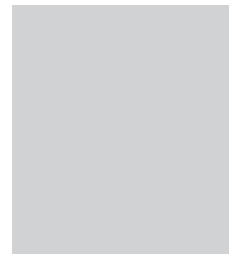


キティ・リックス／メリーゴーランド／1929

漆工 Lacquerware works



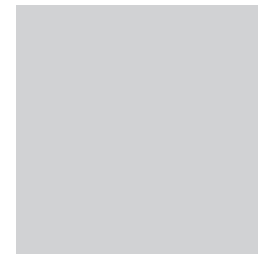
大場松魚／平文鈴虫平棗／1986



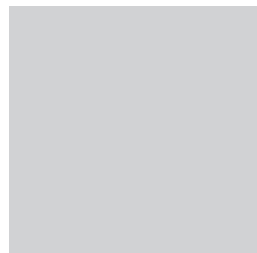
大場松魚／平文椿香合／1986



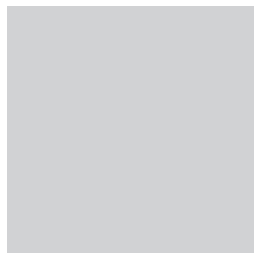
大場松魚／松文四方盆／c.1986



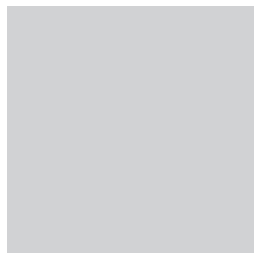
音丸耕堂／彫漆香合紫陽花／c.1970



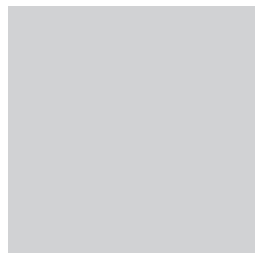
音丸耕堂／堆漆ノバラ香炉／
c.1979



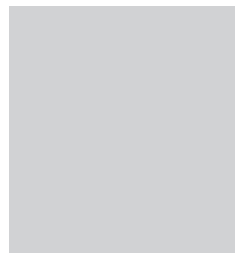
音丸耕堂／独楽盆／制作年不詳



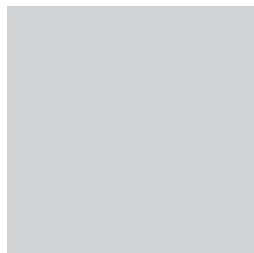
音丸耕堂／堆漆鯨々茶器／
制作年不詳



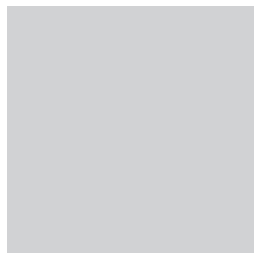
北村昭斎／金平脱菟文八角香合
／1986



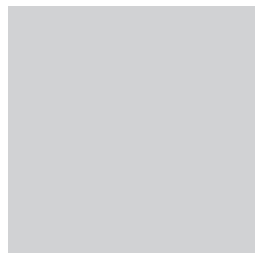
黒田辰秋／朱漆三面鏡／1934



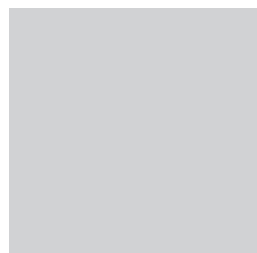
黒田辰秋／銀粉溜螺鈿流卍文茶
器／c.1949



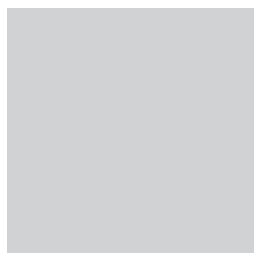
黒田辰秋／耀貝螺鈿茶器／
c.1970



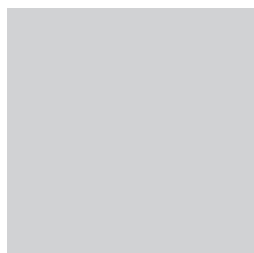
田口善国／蒔絵棗／20世紀後半



藤井親文／片切沈金女郎花棗／
制作年不詳

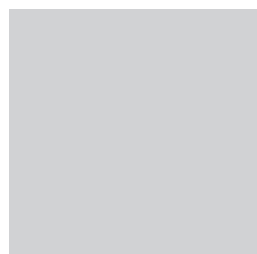


前大峰／沈金花鳥文黒塗平棗／
制作年不詳

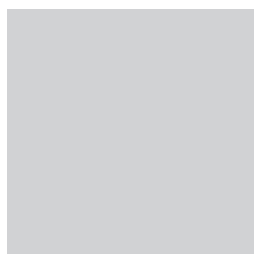


松田権六／長生の器／c.1940

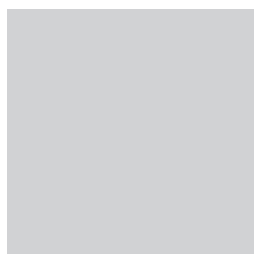
竹工 Bamboo works



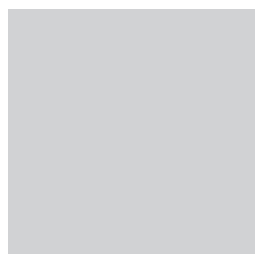
生野祥雲斎／紫竹かけ華籃 銘美
の虫／c.1965



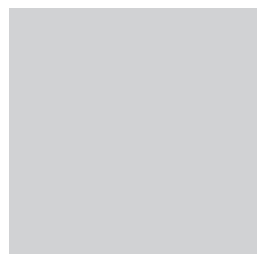
初代田辺竹雲斎／笈形耳付花籃
／1904-37



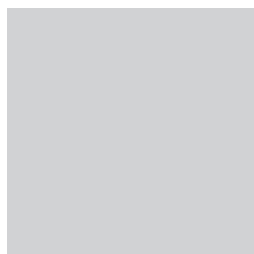
初代田辺竹雲斎／唐物写花盛籃
／1904-37



初代田辺竹雲斎／竹根手花籃 寶
山／1904-37

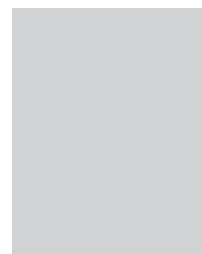


田辺一竹斎(二代竹雲斎)／せせら
花籃／1937-91

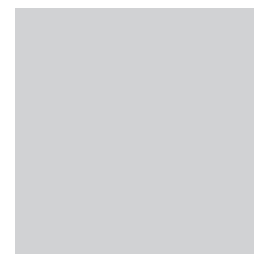


田辺一竹斎(二代竹雲斎)／矢竹
末廣花籃／1937-91

ガラス Glass works



八木一夫／オパール長瓶／1967



八木一夫／ガラ枕／1967



八木一夫／U管／1967

染織 Textiles



井隼慶人／埋れた記憶／1999



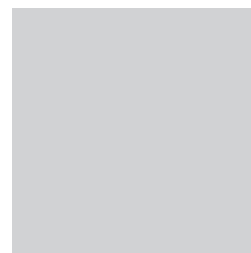
井隼慶人／菱／2005



井隼慶人／寒風／2014



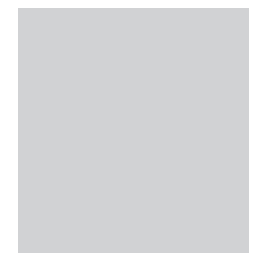
井隼慶人／歳時／2020



小合友之助／笹垣文着物／
制作年不詳



小合友之助／染名古屋帯 雨中
山水／制作年不詳



小合友之助／波文着物／
制作年不詳



小合友之助／山文羽織／
制作年不詳



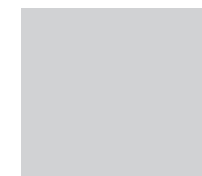
草間詰雄／Wall-LG／1982



草間詰雄／windscape-20／
1992



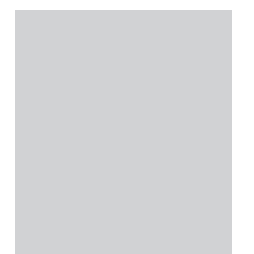
草間詰雄／Seascape／1994



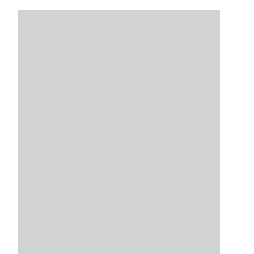
草間詰雄／Octets／2020



草間詰雄／Rainbow／2020



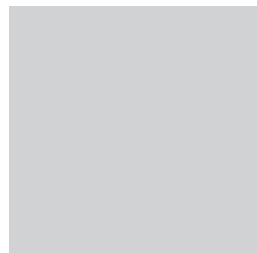
志村ふくみ／三部作 蘆刈／
2015



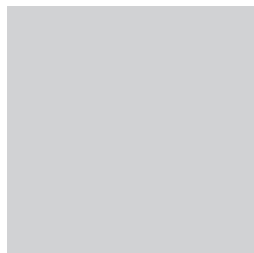
志村ふくみ／三部作 青湖／
2015



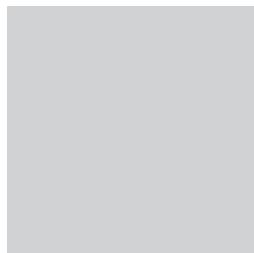
志村ふくみ／三部作 雪炎／
2015



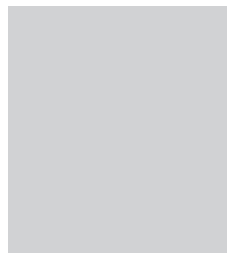
ひろいのぶこ / BOAT 1 / 1982



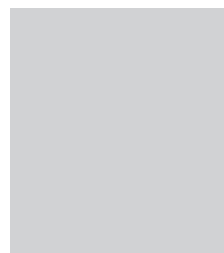
ひろいのぶこ / BOAT 2 / 1982



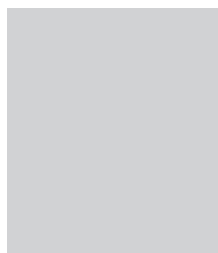
ひろいのぶこ / TO THE FOREST MARIONETT / 1991



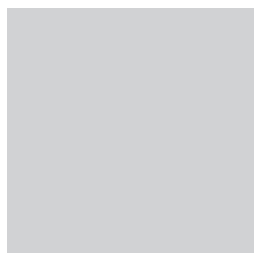
ひろいのぶこ / TO THE FOREST MIRROR / 1991



ひろいのぶこ / FINGER / 2000

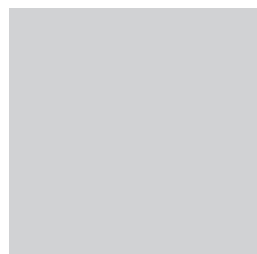


ひろいのぶこ / SPOTTED HAND / 2000

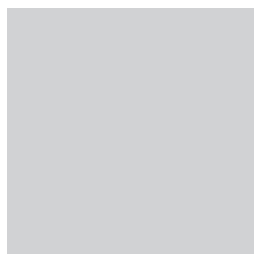


ひろいのぶこ / TRACES 痕跡の布 / 2013

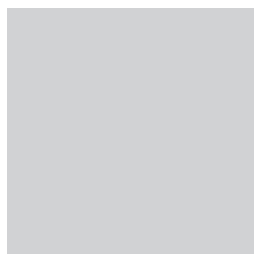
人形 Dolls



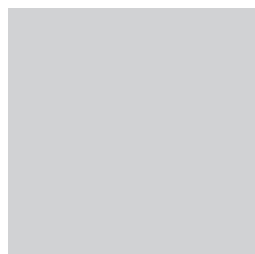
鹿児島壽藏 / 簾の川上 / c.1966



鹿児島壽藏 / 童女神 / 1982

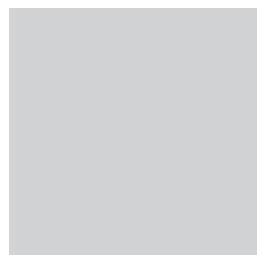


平田郷陽 / 花 / c.1980



堀柳女 / あげぼの / c.1955

その他 Non-Category works



笠原恵美子 / 90-13 / 1990



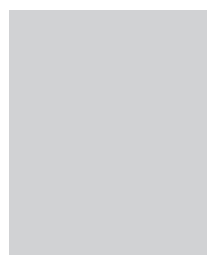
笠原恵美子 / 90-14 / 1990



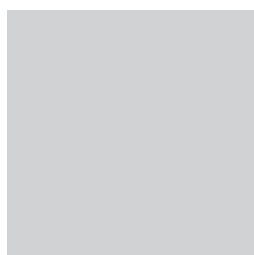
笠原恵美子 / This Sentence Is Not Composed of Eight Words / 1991



河井寛次郎・黒田辰秋 / 煙草具 / c.1950



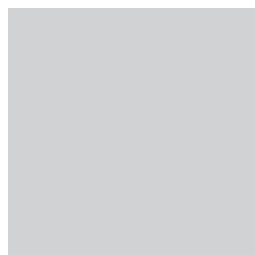
河口龍夫 / 位置 / 1969



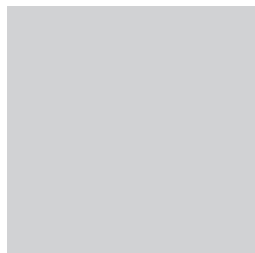
北山善夫 / 一つの合理性 / 2020



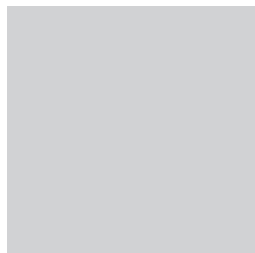
倉俣史朗 / Melody in F / 1987



斎田梅亭 / 截金雪月花文茶入 / c.1974



斎田梅亭 / 截金菜華文飾筥 / 1977



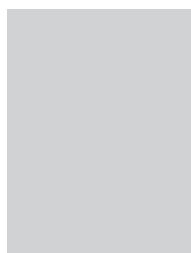
竹村京 / Renovated: Piggy Bank, Globe / 2002-2021



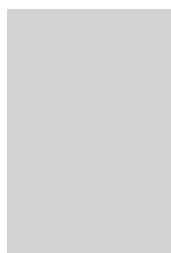
竹村京 / Renovated: K.T.'s German Coffee Cup / 2003



竹村京 / Renovated: Polish Tea Pot / 2003



竹村京 / Renovated: Y.T.'s Flower Glass / 2008



竹村京 / Renovated: Duck and Girl / 2012



竹村京 / Renovated: German Crystal Wineglass / 2013



竹村京 / Renovated: Bicycle Saddle / 2014



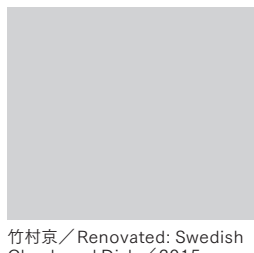
竹村京 / Renovated: K.K.'s Blue Blush / 2015



竹村京 / Renovated: K.T.'s Chinese cup 1, 2 / 2015



竹村京 / Renovated: Sandglass / 2015



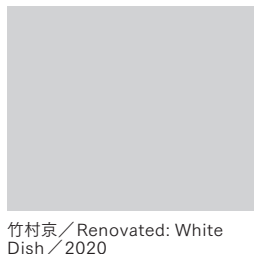
竹村京 / Renovated: Swedish Checkered Dish / 2015



竹村京 / Renovated: Red BMW / 2016



竹村京 / Renovated: K.K.'s Brush / 2018



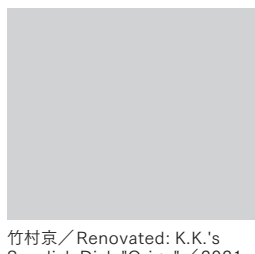
竹村京 / Renovated: White Dish / 2020



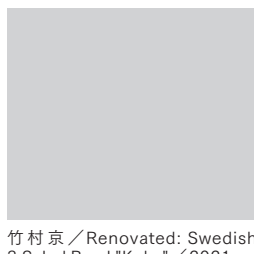
竹村京 / Renovated: Dish with Plums / 2021



竹村京 / Renovated: Family T.'s Japanese Dish / 2021



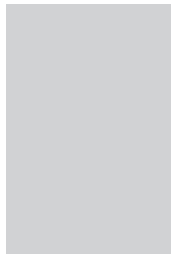
竹村京 / Renovated: K.K.'s Swedish Dish "Origo" / 2021



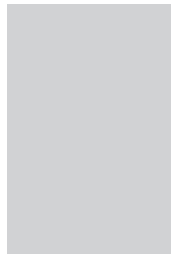
竹村京 / Renovated: Swedish 3 Salad Bowl "Koka" / 2021



竹村京 / Floating on the River / 2021



森村泰昌／星男(アトリエにて)／1990



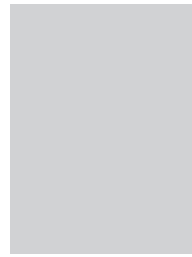
森村泰昌／星男(鴨川にて)／1990



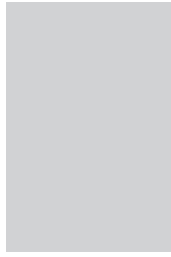
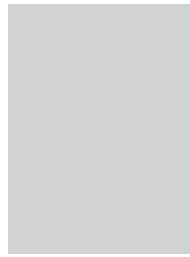
森村泰昌／星男(京都御所にて)／1990



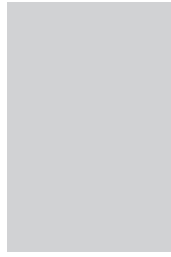
森村泰昌／星男(金閣寺にて)／1990



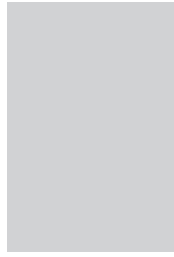
山崎隆／自画像／門／1930-36



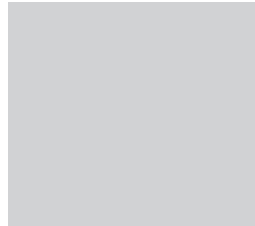
森村泰昌／星男(新京極にて)／1990



森村泰昌／星男(旅立ち)／1990



森村泰昌／星男(平安神宮にて)／1990



森村泰昌／星男(ビデオ)／1990

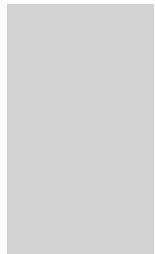
資料 Reference materials



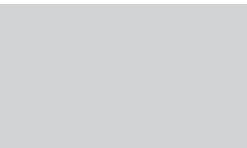
伊砂利彦／《ドビュッシー作曲「前奏曲I」のイメージより》型紙一式／c. 1981-84



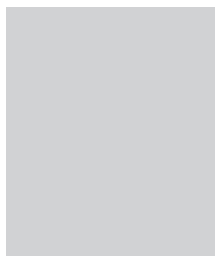
伊砂利彦／《ドビュッシー作曲「前奏曲II」のイメージより》型紙一式／c. 1981-84



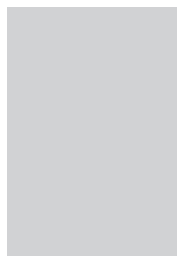
小合友之助／風景圖／大正～昭和初期



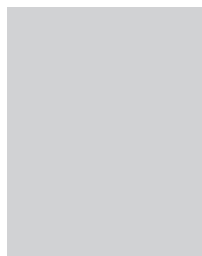
小合友之助／波濤之圖／制作年不詳



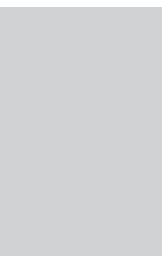
須田国太郎／資料集／1950年代



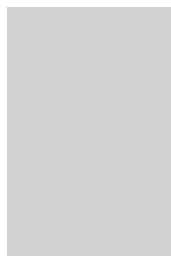
村上華岳／箱書／制作年不詳



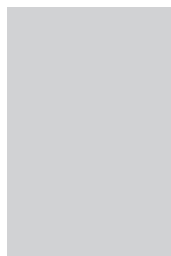
村山東呉／【題名不詳】／制作年不詳



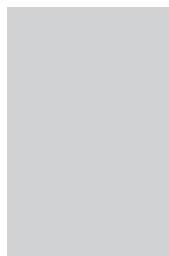
八木一夫／エスキース 形象／c.1968



八木一夫／エスキース 筒花生など／c.1968



八木一夫／エスキース「左の目へ話しかけたい右の瞳」の機構／c.1968



八木一夫／エスキース 右の目と左の目の情報／c.1968

Photo Credit
撮影
倉俣史朗／Melody in F／1987：清忠之
竹村京／Floating on the River／2021：衣笠名津美
竹村京／Renovatedシリーズ18点：守屋友樹

新収蔵品目録
New Acquisitions List

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
日本画						
石川晴彦	(1901-1980)	鮎魚	c.1950	紙本墨画淡彩／軸装	39.5×45.0	島田康寛氏寄贈
今尾景年	(1845-1924)	松上雄雉図	c.1897	絹本墨画淡彩／軸装	117.8×48.9	島田康寛氏寄贈
入江波光	(1887-1948)	母鶏と雛	1932	絹本着色／軸装	37.5×42.8	高野惺美氏寄贈
烏頭尾精	(1932-)	珍鳥	1959	紙本着色／額装	72.7×90.9	作者寄贈
烏頭尾精	(1932-)	花と鳥	1964	紙本着色／額装(2面)	右:144.0×170.0 左:144.0×100.0	作者寄贈
烏頭尾精	(1932-)	飛ぶ	1973	紙本着色／額装	91.0×65.0	作者寄贈
江中無牛	(1868-1928)	蝦蟇鉄拐	不詳	絹本着色／軸装(双幅)	蝦蟇:118.9×55.7 鉄拐:118.6×55.2	購入
菊池芳文	(1862-1918)	春近	c.1912-17	絹本墨画淡彩／軸装	117.2×42.3	島田康寛氏寄贈
幸野煤嶺	(1844-1895)	月夜時鳥	c.1887	絹本墨画淡彩／軸装	108.3×40.2	島田康寛氏寄贈
木島桜谷	(1877-1938)	青風明月	c.1918	絹本墨画淡彩／軸装	125.4×41.4	島田康寛氏寄贈
塩川文麟	(1808-1877)	雪中平等院	c.1863	絹本墨画淡彩／軸装	121.0×47.5	島田康寛氏寄贈
下村良之介	(1923-1998)	響風	1992	紙粘土、紙、顔料、板／パネル(5枚)	大:(各)183.0×92.0 小:(各)183.0×46.0	下村直美氏寄贈
玉城末一	(1897-1943)	莓	c.1935	絹本着色／軸装	37.1×40.8	島田康寛氏寄贈
津田青楓	(1880-1978)	蔬菜之図	c.1918	紙本着色／軸装	57.0×43.2	島田康寛氏寄贈
富田溪仙	(1879-1936)	水郷晴嵐図	c.1913	紙本墨画淡彩／軸装	185.4×93.3	島田康寛氏寄贈
中島来章	(1796-1871)	夏冬花鳥図(花菖蒲鸚鵡・雪中蘆鴨図)	1871	絹本着色／軸装(双幅)	(各)128.1×50.6	島田康寛氏寄贈
西村五雲	(1877-1938)	富貴草	c.1919	絹本着色／軸装	39.0×50.5	島田康寛氏寄贈
西山翠嶂	(1879-1958)	涼秋	c.1916-21	絹本着色／軸装	128.6×41.8	島田康寛氏寄贈
秦 テルヲ	(1887-1945)	先斗町夜景	c.1935-37	絹本墨画淡彩／軸装	25.7×48.5	島田康寛氏寄贈
深田直城	(1861-1947)	瀑布に鷹・雪中鴛鴦図	1895	絹本着色／軸装(双幅)	(各)139.3×83.8	購入
不動茂弥	(1928-2016)	かの女	1970	顔料、浄瑠璃本、板／パネル	122.0×122.3	不動尚史氏寄贈
不動茂弥	(1928-2016)	字を書く人	1977	アクリル、紙／パネル	84.0×100.0	不動睦子氏寄贈
不動茂弥	(1928-2016)	ゆ	1984	アクリル、カンバス／額装	161.5×130.8	不動さやか氏寄贈
不動茂弥	(1928-2016)	路線図を見る女	1986	アクリル、カンバス／パネル	156.5×130.8	不動悠史氏寄贈
不動茂弥	(1928-2016)	都大路の菩薩さま(2)	1994	顔料、アクリル、砂、紙、カンバス／額装	116.7×91.0	不動悠史氏寄贈
不動茂弥	(1928-2016)	再度の挑み	1995	顔料、アクリル、砂、カンバス／パネル	162.0×193.5	不動尚史氏寄贈
三木翠山	(1887-1957)	大井川渡輦	c.1922	絹本着色／軸装	155.1×51.0	購入
棟方志功	(1903-1975)	御鷹々之図	1951	紙本墨画／襖(6面)	(各)174.2×96.8	浦辺太郎氏寄贈
山口華楊	(1899-1984)	月夜野	1971	紙本着色／額装	186.0×153.0	小山照子氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	(絵専卒業制作)	1936	紙本着色／屏風(二曲一隻)	189.0×173.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	(冬景色)	1936-44	紙本着色／屏風(トリプティック)	195.0×240.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	生物	1946-55	紙本着色／額装	59.0×63.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	作品(E)	c.1952	紙本着色／額装	90.0×42.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	作品 A	c.1956	紙本着色／額装	57.0×61.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	集	1971	紙本着色／額装	52.0×44.0	山崎晃嗣氏寄贈
山崎 隆	(1916-2004)	(題名不詳)	1975	紙本着色／額装	38.0×45.5	山崎晃嗣氏寄贈

油彩

小出楯重	(1887-1931)	裸女結髪	1927	油彩、麻布／額	59.5×48.7	購入
須田国太郎	(1891-1961)	御堂	不詳	油彩、麻布	38.0×45.5	須田寛氏寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
素描						
須田国太郎	(1891-1961)	海亀	1940	紙、鉛筆	23.0×31.8	須田寛氏寄贈
須田国太郎	(1891-1961)	スケッチブック 9冊	1943～55年 及び前後	紙、鉛筆、コンテ等／ スケッチブック	38.5×29.5 ほか	須田寛氏寄贈
須田国太郎	(1891-1961)	能楽スケッチ集 2包	1946年 及び前後	紙、鉛筆	27.4×76.6 ほか	須田寛氏寄贈

版画

八木一夫	(1918-1979)	版画(A)	1965	インク、紙	18.4×11.5	購入
八木一夫	(1918-1979)	版画(B)	1965	インク、紙	12.3×9.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	版画(C)	1965	インク、紙	12.0×9.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	版画(D)	1965	インク、紙	12.0×9.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	版画(E)	1965	インク、紙	11.5×8.6	購入
八木一夫	(1918-1979)	木版画A	1975	インク、紙	55.0×44.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	木版画B	1975	インク、紙	45.3×37.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	木版画C	1975	インク、紙	44.0×34.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	木版画D	1975	インク、紙	30.3×23.8	購入
八木一夫	(1918-1979)	木版画E	1975	インク、紙	28.0×23.0	購入

彫刻

八木一夫	(1918-1979)	熊	1935	石膏、着色	13.3(h)×17.5×30.5	購入
八木一夫	(1918-1979)	作品	1969	ブロンズ	36.0(h)×15.0×15.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	呪者	1969	ブロンズ	45.0(h)×16.0×16.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	肖像あるいは鏡	1969	ブロンズ	31.0(h)×20.0×11.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	融合への分離	1969	ブロンズ	28.5(h)×16.5×14.0	購入

陶芸

今井政之	(1930-2023)	象嵌彩 能面 器	c.1957	陶器	36.2(h)×32.3×31.9	作者寄贈
今井政之	(1930-2023)	象嵌彩 悠鯨 花壺	1976	陶器	40.0(h)×40.5×40.5	作者寄贈
今井政之	(1930-2023)	象嵌彩窯変 丸紋椿 大皿	1995	陶器	11.0(h)×63.5×63.5	作者寄贈
河井寛次郎	(1890-1966)	愛染鳥子	c.1920	陶器	35.5(h)×18.2×12.5	室治氏 寄贈
北大路魯山人	(1883-1959)	紅志野茶碗	1945-1959	陶器	7.2(h)×11.4×11.4	玉井良胤氏寄贈
鈴木康之	(1926-2020)	芽	1947	陶器	31.0(h)×12.5×10.5	購入
林 康夫	(1928-)	作品	1966	陶器	34.5(h)×38.0×29.0	作者寄贈
林 康夫	(1928-)	Protuberant (B)	1974	陶器	31.0(h)×34.5×22.5	作者寄贈
林 康夫	(1928-)	横へ	1988	陶器	27.5(h)×39.5×36.0	作者寄贈
林 康夫	(1928-)	星天の位置A	2002	陶器	47.5(h)×47.5×27.5	作者寄贈
林 康夫	(1928-)	寓舎 刻韻06	2006	陶器	44.0(h)×22.0×22.0	作者寄贈
林 康夫	(1928-)	寓舎 陳者II	2011	陶器	28.4(h)×35.6×16.2	作者寄贈
深見陶冶	(1947-)	屹	2013	磁器	198.0(h)×51.0×44.0	購入
富士原恒宣	(1939-)	白瓷壺	1980～90年代	磁器	31.5(h)×22.5×22.5	作者寄贈
富士原恒宣	(1939-)	白瓷壺	1980～90年代	磁器	23.2(h)×25.0×25.0	作者寄贈
富士原恒宣	(1939-)	白瓷捻面取壺	1980～90年代	磁器	31.5(h)×16.5×16.0	作者寄贈
富士原恒宣	(1939-)	白瓷扁壺	1980～90年代	磁器	32.5(h)×15.0×16.0	作者寄贈
三輪壽雪	(1910-2012)	萩灰被水指	1967-1982	陶器	16.5(h)×20.5×20.5	玉井良胤氏寄贈
エンリック・メストレ	(1936-)	作品	2009	陶器	27.0(h)×31.0×31.0	林 康夫氏寄贈
八木一夫	(1918-1979)	陶彫 猫	c.1938	陶器	43.0(h)×12.0×15.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	鳥	c.1938	陶器	30.0(h)×13.0×8.0	購入
八木一夫	(1918-1979)	野兔の陶彫	1939	陶器	19.4(h)×28.8×14.8	購入
八木一夫	(1918-1979)	作品	1940～50年代	陶器	5.6(h)×38.0×25.5	購入
八木一夫	(1918-1979)	鉄象嵌壺	1940～50年代	陶器	21.0(h)×17.0×17.0	購入

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	BOAT 2	1982	ウール、杉皮、紙、ピン／紙造形	6.0(h)×22.0×14.0	作者寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	TO THE FOREST -MARIONETT-	1991	絹、真鍮、木、鏡、顔料／織、着色	61.0(h)×32.0×52.0	作者寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	TO THE FOREST -MIRROR-	1991	絹、真鍮、木、鏡、顔料／織、着色	52.0×27.0×6.0(d)	作者寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	FINGER	2000	絹、ウール、安全ピン、墨／織、フェルト加工、縮	65.0×35.0×4.0(d)	作者寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	SPOTTED HAND	2000	ウール、絹、真鍮／織、縮	33.0×18.0×11.0(d)	作者寄贈
ひろいのぶこ	(1951-)	TRACES 痕跡の布	2013	絹、赤土／切断、結合、織、染	120.0×127.0×5.0(d)	作者寄贈

人形

鹿児島壽藏	(1898-1982)	簸の川上	c.1966	紙塑	19.5(h)×10.8×7.4	玉井良胤氏寄贈
鹿児島壽藏	(1898-1982)	童女神	1982	紙塑	14.0(h)×12.5×12.0	玉井良胤氏寄贈
平田郷陽	(1903-1981)	花	c.1980	木彫、着せつけ	12.0(h)×15.0×9.5	玉井良胤氏寄贈
堀柳女	(1897-1984)	あけぼの	c.1955	木彫、着せつけ	28.0(h)×18.0×10.0	玉井良胤氏寄贈

その他

笠原恵美子	(1963-)	90-13	1990	カラープリント	208.0×208.0	作者寄贈
笠原恵美子	(1963-)	90-14	1990	カラープリント	99.8×280.0	作者寄贈
笠原恵美子	(1963-)	This Sentence Is Not Composed of Eight Words.	1991	大理石、タイル、アルミニウム、エナメル加工された皮革、切り文字	(各)67.5×90.0×90.0	購入
河井寛次郎／黒田辰秋	(1890-1966)／(1904-1982)	煙草具	c.1950	木、漆、陶器	盆:2.5(h)×40.5×22.0 マッチ入:3.0(h)×4.5×6.0 真箱:9.2(h)×10.5×10.5 灰皿:9.9(h)×10.8×11.3	玉井良胤氏寄贈
河口龍夫	(1940-)	位置	1969	京都市内地図、油性ペン	91.7×71.7	購入
北山善夫	(1948-)	一つの合理性	2020	木(椿、榿、櫻、松)、竹、美濃紙、銅線、アクリル絵具、鉛筆	118.0×100.0×90.0	購入
倉俣史朗	(1934-1991)	Melody in F	1987	木、スチール	71.0(h)×91.0×68.0	ギャラリーギャラリー寄贈
斎田梅亭	(1900-1981)	截金雪月花文茶入	c.1974	木、截金	6.6(h)×6.6×6.6	玉井良胤氏寄贈
斎田梅亭	(1900-1981)	截金菜華文飾筥	1977	木、截金	12.2(h)×21.9×11.3	玉井良胤氏寄贈
竹村 京	(1975-)	Renovated: Piggy Bank, Globe	2002-2021	ドイツ製貯金箱、外国紙幣、合成繊維、日本製釜糸	15.0×16.0×15.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: K.T.'s German Coffee Cup	2003	カップ、合成繊維、日本製釜糸	12.0×9.6×8.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Polish Tea Pot	2003	ポット、合成繊維、日本製釜糸	23.0×20.0×15.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Y.T.'s Flower Glass	2008	グラス、合成繊維、日本製釜糸	16.5×6.5×6.5	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Duck and Girl	2012	玩具、合成繊維、日本製釜糸	2.5×5.3×2.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: German Crystal Wineglass	2013	ワイングラス、合成繊維、日本製釜糸	18.5×10.0×10.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Bicycle Saddle	2014	サドル、合成繊維、日本製釜糸	27.0×15.0×7.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: K.K.'s Blue Blush	2015	絵具のついたブラシ、合成繊維、日本製釜糸	10.0×13.5×2.7	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: K.T.'s Chinese cup1, 2	2015	湯呑、合成繊維、日本製釜糸	9.0×10.5×6.5、10.0×8.0×6.5	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Sandglass	2015	砂時計、合成繊維、日本製釜糸	15.5×6.5×5.5	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Swedish Checkered Dish	2015	皿、合成繊維、日本製釜糸	21.0×20.5×6.7	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Red BMW	2016	玩具、合成繊維、日本製釜糸	8.5×5.5×3.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: K.K.'s Brush	2018	絵具のついたブラシ、合成繊維、日本製釜糸	29.5×6.5×1.3	購入

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
竹村 京	(1975-)	Renovated: White Dish	2020	皿、合成繊維、日本製釜糸	31.5×28.0×2.5	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Dish with Plums	2021	皿、合成繊維、日本製釜糸	23.0×23.0×3.0	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Family T.'s Japanese Dish	2021	皿、合成繊維、日本製釜糸	24.0×23.0×3.2	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: K.K.'s Swedish Dish "Origo"	2021	皿、合成繊維、日本製釜糸	2.0×21.0×2.5	購入
竹村 京	(1975-)	Renovated: Swedish 3 Salad Bowl "Koka"	2021	鉢、合成繊維、日本製釜糸	23.0×20.0×15.0	購入
竹村 京	(1975-)	Floating on the River	2021	日本製絹糸、絹製オーガンジー、布にインクジェットプリント	360.0×840.0	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(アトリエにて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	30.4×25.2	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(鴨川にて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	30.4×25.2	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(京都御所にて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	25.2 × 30.4	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(金閣寺にて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	25.2×30.4	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(新京極にて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	30.4×25.2	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(旅立ち)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	25.3×20.2	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(平安神宮にて)	1990/2004	ゼラチン・シルバー・プリント	30.4×25.2	購入
森村泰昌	(1951-)	星男(ビデオ)	1990/2016	シングルチャンネル・ビデオ (白黒・カラー、サウンド、13分18秒)、真空管テレビ、樹脂製オブジェ(USB内蔵)	テレビ: 18.0×18.0×13.0 オブジェ: 51.0×46.0×50.0	購入

資料

伊砂利彦	(1924-2010)	《ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイメージより》 型紙 一式	c.1981-84	型紙	111.0×28.0ほか	渡邊ルリ子氏寄贈
伊砂利彦	(1924-2010)	《ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイメージより》 型紙 一式	c.1981-84	型紙	113.0×81.0ほか	渡邊ルリ子氏寄贈
小合友之助	(1898-1966)	風景圖	大正～昭和初期	紙本墨画淡彩	31.8×18.7	伊達愛子氏寄贈
小合友之助	(1898-1966)	波濤之圖	不詳	紙本墨画	23.5×40.5	伊達愛子氏寄贈
須田国太郎	(1891-1961)	資料集(彫刻着色写真1面、書簡5通、遺作展関連資料1封、売買契約書等資料1封、写真15枚1封、新聞切抜1封)	1950年代等	額1面、書簡5通、封筒4封	27.5×20.0 ほか	須田寛氏寄贈
前田青邨ほか	(1885-1977)	上田竹泉堂宛書簡 および葉書	1914-1925	紙、墨ほか	14.0×9.0ほか	上田研一氏寄贈
村上華岳	(1888-1939)	入江波光宛葉書	1908-1911	紙、墨ほか	14.0×9.0ほか	村上 伸氏寄贈
村上華岳	(1888-1939)	上田竹泉堂宛書簡 および葉書	1933-1939	紙、墨ほか	14.0×7.0ほか	上田研一氏寄贈
村上華岳	(1888-1939)	箱書	不詳	板、墨／額装(10面)	45.2×7.4ほか	村上 伸氏寄贈
村山東呉	不詳	【題名不詳】	不詳	写真／まくり	35.0×25.2	山崎晃嗣氏寄贈
八木一夫	(1918-1979)	エスキース 形象	c.1968	鉛筆、紙	35.7×25.3	購入
八木一夫	(1918-1979)	エスキース 筒花生など	c.1968	鉛筆、紙	35.7×25.3	購入
八木一夫	(1918-1979)	エスキース「左の目へ話しかけた右の瞳」の機構	c.1968	鉛筆、紙	35.7×25.3	購入
八木一夫	(1918-1979)	エスキース 右の目と左の目の情報	c.1968	鉛筆、紙	35.7×25.3	購入
山崎 隆	(1916-2004)	自画像／門	1930-36	紙本着色／パネル(両面)	76.0×57.0	山崎晃嗣氏寄贈

保存
Conservation

[絵画11点、水彩1点、素描1点、版画1点、資料・その他1点]

特別修復予算を利用して、菊池芳文ほか《(合作)》、木島桜谷《鹿図》、高谷仙外《みはれるまなこ》、高谷仙外《(象と鳩)》、甲斐庄楠音《裸婦デッサン》、上村淳之《四季花鳥図》、川端玉章《山澗僻邑》、加藤土師萌《下図「萌黄金欄手蓋付飾壺」》を修復した。

通常予算により、寺松国太郎《寺院》、田中善之助《裸婦》、正宗得三郎《富岡鉄斎像》、山下新太郎《宇治川》、榎本巳之助《行徳風景》(水彩)、須田国太郎《風景》(版画)、白髪一雄《天暴星両頭蛇》を修復した。

貸出
Loan

[作品貸出58件949点／58 sets of 949]

国外では、フランクフルト近代美術館(ドイツ、フランクフルト)で開催された「Marcel Duchamp: A Revision of the Object」展にマルセル・デュシャンの記念碑的作品《泉》(1917/1964年)を含むレディメイド6点を、香港のM+(エム・プラス)美術館で開催された「Yayoi Kusama: 1945 to Now」展に草間彌生《トラヴェリング・ライフ》(1964年)を貸与した。また、アルケン近代美術館(デンマーク、コペンハーゲン近郊イシヨイ)で開催された「Woman and Change」展に、平成31/令和元年度の特別予算で購入したピピロッティ・リスト《永遠は終わった、永遠はあらゆる場所に(Ever is Over All)》(1997年)を貸与した。ただし当館が所蔵するオリジナル・データを実際に貸与することはせず、作家からの申し出により、展示用複製データは作家自身から提供することとなった。

国内では主な事例として、「交歓するモダン 機能と装飾のモダニティ」展(豊田市美術館、鳥根県立石見美術館、東京都庭園美術館)にソニア・ドローネー《リズム》(1915-30年)など14点を、「並河靖之の雅な技 海外を魅了した明治時代の京都七宝」展(茨城県天心記念五浦美術館)には展覧会広報のメインヴィジュアルにも使われた並河靖之の代表作《桜蝶図皿》(明治時代中期)のほか初代稲葉七穂や壽川惣助らの名品計20点を、西宮市大谷記念美術館開館50周年として開催された特別展「Back to 1972 50年前の現代美術へ」には池田満寿夫《七つの大罪(罪)》(1972年)ほか版画作品を中心に19点を貸与し、いずれも各展覧会に欠くべからざる作品として、展覧会内容の充実に寄与した。

また、当館で開催したキュレトリアル・スタディズ15「八木一夫の写真」の展示作品100点を、特別協力として茨城県陶芸美術館に貸与した。さらに、当館寄託の高野コレクション(明治期の日本の風景を描いた作品約640点)から、「発見された日本の風景」展として、愛媛県美術館に247件、長野県美術館に246件を一括貸与した。

[特別観覧24件133点／24 sets of 133]

特別協力
Special Cooperation

「カメラを手にした八木一夫」

会期：2022年12月14日(水)～2023年3月12日(日)

主催・会場：茨城県陶芸美術館

特別協力：八木明氏、京都国立近代美術館

普及事業
Public Programs

NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films
MoMAK Films Screening

主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ
会場：京都国立近代美術館講堂

プログラム

[現代日本映画監督特集 2：中田秀夫]

▶2022年5月28日(土)午後2時～3時15分

上映作品：『女優霊』1996年(WOWOW／バンダイビジュアル)
参加人数：9名

▶2022年5月29日(日)午後2時～3時40分

上映作品：『LAST SCENE』2002年(DIGITAL NEGA)
参加人数：14名

[現代日本映画監督特集 2：橋口亮輔／矢口史靖]

▶2022年8月27日(土)午後2時～4時9分

上映作品：『渚のシンドバッド』1995年(東宝＝ぴあ)
参加人数：15名

▶2022年8月28日(日)午後2時～3時31分

上映作品：『ウォーターボーイズ』2001年(アルタミラピクチャーズ＝フジテレビジョン)
参加人数：18名

[現代日本映画監督特集 2：大九明子／李相日]

▶2022年11月26日(土)午後2時～3時53分

上映作品：『恋するマドリ』2007年(『恋するマドリ』パートナーズ)
参加人数：12名

▶2022年11月27日(日)午後2時～3時57分

上映作品：『SCRAP HEAVEN スクラップ・ヘブン』2005年(『スクラップ・ヘブン』パートナーズ)
参加人数：16名

[現代日本映画監督特集 2：中江裕司／松岡錠司]

▶2023年2月25日(土)午後2時～3時32分

上映作品：『ナビィの恋』1999年(オフィス・シロウズ)
参加人数：18名

▶2023年2月26日(日)午後2時～3時43分

上映作品：『きらきらひかる』1992年(フジテレビ)
参加人数：25名

講演会、シンポジウム、ギャラリートーク
Lectures, Symposia, Gallery Talks

▶2022年4月9日(土)午後2時～3時30分

「サロン! 雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇」展講演会
「京・大坂の画家たちの交流」
講師：中谷伸生(関西大学名誉教授・一般財団法人きょうと視覚文化振興財団理事)

会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信＋アーカイブ公開
参加人数：45名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年4月23日(土)午後2時～3時30分

「サロン! 雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇」展講演会
「大坂に西山派あり!ー芳園・完瑛にみる写生画の系譜」
講師：明尾圭造(大阪商業大学教授・商業史博物館首席学芸員)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信＋アーカイブ公開
参加人数：36名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年4月30日(土)午後2時～3時30分

「サロン! 雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇」展講演会
「"沈南蘋"をキーワードにして読み解く」
講師：平井啓修(京都国立近代美術館主任研究員)
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：32名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年6月5日(日)午後6時30分～[ライブ配信]

「MONDO」展関連イベント ギャラリートーク
講師：岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2022年8月9日(火)午後6時30分～[ライブ配信]

「清水九兵衛」展関連イベント ギャラリートーク
講師：八代清水六兵衛(陶芸家)、藤岡五郎(清水九兵衛アシスタント)、大長智広(京都国立近代美術館主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館1階ロビー、3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2022年8月20日(土)午後2時～3時30分

「清水九兵衛」展講演会
「清水洋と九兵衛と六兵衛のあいだー京焼の名家の中で」
講師：大長智広
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：31名

▶2022年8月

清水九兵衛展 お掃除動画「ここで掃除させてください!」
企画：京都国立近代美術館
指導・出演：藤岡五郎(清水九兵衛アシスタント)
指導：大長智広
企画・出演：松山沙樹(京都国立近代美術館研究員)、土山里子(京都国立近代美術館特定研究員)
出演：牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)、富川智美(京都国立近代美術館任期付研究員)、村松綾(京都国立近代美術館任期付研究員)、清田菜央(令和4年度学芸課インターン生)
イラスト：にしむらさちこ
協力：京都文化博物館
映像撮影・編集：守屋友樹
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年9月3日(土)午後2時～3時30分

「清水九兵衛」展講演会
「彫刻家・清水九兵衛とアフィニティ」

講師：森啓輔(千葉市美術館学芸員)

会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信＋アーカイブ公開
参加人数：37名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年10月14日(金)午後5時30分～7時

「ルートヴィヒ美術館」展講演会
「Collecting for the Public: Irene and Peter Ludwig(公共のための作品収集：イレーネ&ペーター・ルートヴィヒ)」
講師：カルラ・クギーニ(ペーター&イレーネ・ルートヴィヒ財団理事長)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信(10月14日のみライブ配信)
参加人数：39名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年11月20日(日)午後2時～4時

「ルートヴィヒ美術館」展関連イベント クロストーク
「展覧会が社会を開くーコレクターたちが見た時代の記録と提言ー」
講師：長屋光枝(国立新美術館学芸課長)、池田祐子(京都国立近代美術館副館長・学芸課長)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信(11月20日のみライブ配信)
参加人数：38名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2023年1月28日(土)午後2時～3時30分

「リュウユ」展講演会
「リュウユの歴史——ヴァイキング船からアート・ギャラリーへ」
講師：トゥオマス・ソパネン(本展出品者)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信＋アーカイブ公開
参加人数：68名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2023年2月3日(金)午後6時30分～[ライブ配信]

「リュウユ」展関連イベント ギャラリートーク
講師：富川智美
撮影場所：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2023年2月11日(土・祝)午後6時30分～[ライブ配信]

「甲斐荘楠音」展関連イベント ギャラリートーク
講師：梶岡秀一(京都国立近代美術館主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2023年2月23日(木・祝)午後2時～3時30分

「甲斐荘楠音」展記念講演会
「甲斐荘楠音をとおして女装の時代を考える」
講師：井上章一(国際日本文化研究センター所長)
会場：京都国立近代美術館1階ロビー＋ウェブ配信＋アーカイブ公開
参加人数：103名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2023年3月4日(土)午後2時～3時30分

「甲斐荘楠音」展記念講演会
「太秦時代劇における甲斐荘楠音の役割と功績」
講師：山口記弘(東映株式会社・経営戦略部フェロー)
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：80名

▶2023年3月13日(月)午後5時～[ライブ配信]

「甲斐荘楠音」展関連イベント ギャラリートーク
講師：梶岡秀一
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

映像上映
Video Screening

▶2022年9月23日(金)～10月2日(日)午前10時～午後6時(9/23、10/1は午後8時まで)

「ニュー・ブランシュ KYOTO 2022」
上映作品：Consciousness 弦理論交響曲 第3楽章二重共鳴 オーディオ・ビジュアルインスタレーション
アーティストトーク&セッション(2022年10月1日(土)午後6時～午後7時)
参加作家：ヤニック・パジェ(音楽)、アレクサンドル・モベール(映像)、橋本幸士(物理学者)、前田英一(振付・ダンス)、合田有起、野村香子(ダンス)
主催：アンスティチュ・フランセ関西、京都市
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：696名

コンサート
Concert

▶2022年6月18日(土)午後4時30分～
響／都プロジェクト2022コンサートシリーズ 京都国立近代美術館ホワイエコンサート
楽曲提供：京都市立芸術大学音楽学部・大学院 作曲専攻生
演奏：京都市立芸術大学音楽学部・大学院 実技専攻生
司会：岡田加津子(京都市立芸術大学音楽学部教授)
主催：京都市立芸術大学
共催：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ホワイエ
参加人数：70名

▶2022年11月19日(土)午後4時30分～
響／都プロジェクト2022コンサートシリーズ 京都国立近代美術館オーデトリウムコンサート
出演：京都市立芸術大学音楽学部・大学院 声楽専攻4回生
解説：北村敏則(京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻准教授)
主催：京都市立芸術大学
共催：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階講堂
参加人数：49名

学習支援事業
Learning Programs

ワークショップ

Workshops

▶2023年3月5日(日)①午前10時30分～12時30分 ②午後2時～4時 ③午後4時30分～6時30分
「リュイユ」展関連ワークショップ「リュイユ技法でミニアチュール作品を作る」
講師：堤加奈恵(繊維造形作家)
会場：京都国立近代美術館1階講堂
参加人数：43名

学校連携

School Programs

▶2022年4月15日(金)
京都精華大学 芸術学部専門演習科目「現代アートプロジェクト演習1(3)」
講師：牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)
共催：京都精華大学
参加人数：12名(学生11名、教員1名)

▶2022年4月17日(日)
京都女子大学 学芸員養成課程館務見学
講師：宮川智美(京都国立近代美術館任期付研究員)
共催：京都女子大学
参加人数：14名(学生13名、教員1名)

▶2022年4月19日(火)午前10時～12時15分
京都市立銅駝美術工芸高等学校 令和4年度連携授業
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館研究員)
共催：京都市立銅駝美術工芸高等学校
参加人数：96名(生徒92名、引率4名)

▶2022年5月21日(土)午前10時～午後2時
甲南女子大学 博物館実習及び美術史概説臨時学習
講師：梶岡秀一(京都国立近代美術館主任研究員)
共催：甲南女子大学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：41名(学生39名、引率2名)

▶2022年5月29日(日)午後1時15分～2時45分
京都先端科学大学「西洋美術史・日欧比較芸術論・現代アート論」授業
講師：牧口千夏
共催：京都先端科学大学
会場：京都国立近代美術館講堂、1階ロビー、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：6名(学生5名、引率1名)

▶2022年7月25日(月)午前9時～12時30分
令和4年度 図画工作科・美術科夏季連携講座
共催：京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会美術部会、京都市立小学校図画工作教育研究会

会場：京都国立近代美術館講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：40名

▶2022年8月17日(水)午前9時～11時
第22回子ども美術館鑑賞教室
講師：松山沙樹
共催：京都市図画工作教育研究会
会場：京都国立近代美術館1階講堂、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：24名(子ども14名、スタッフ10名)

▶2022年8月25日(木)午前11時40分～午後4時50分
京都芸術大学「建築計画論」概説
講師：牧口千夏
共催：京都芸術大学
参加者数：80名(学生77名、教員3名)

▶2022年10月8日(土)午前11時～12時30分
京都女子大学「博物館情報論」解説
講師：宮川智美
共催：京都女子大学
会場：京都国立近代美術館
参加人数：54名

▶2022年10月18日(火)午前11時～正午
大阪市立豊里南小学校 鑑賞活動
講師：松山沙樹
共催：大阪市立豊里南小学校
会場：京都国立近代美術館
参加人数：66名(児童61名、引率5名)

▶2022年11月2日(水)午後1時～2時
木津川市立南加茂台小学校 鑑賞活動
講師：松山沙樹
共催：木津川市立南加茂台小学校
会場：京都国立近代美術館
参加人数：24名(児童21名、引率3名)

▶2022年11月26日(土)午前10時～11時
京都芸術大学 通信コース(写真)解説
講師：牧口千夏
共催：京都芸術大学
参加人数：21名(学生19名、引率2名)

▶2022年12月2日(金)正午～午後5時30分
京都府高等学校美術・工芸教育研修会 第3回総会／京都府教員研修会
講師：松山沙樹
共催：京都府総合教育センター北部研修所
参加人数：36名(参加者33名、スタッフ3名)

▶2022年12月6日(火)午後1時30分～2時40分
京都市立白河総合支援学校 美術館見学
講師：松山沙樹
共催：京都市立白河総合支援学校
参加人数：15名(生徒12名、引率3名)

▶2022年12月14日(土)午後3時～5時30分

京都美術工芸大学「建築設計基礎演習Ⅰ」学外演習
講師：牧口千夏、松山沙樹
共催：京都美術工芸大学
参加人数：152名

▶2022年12月14日(水)午後5時～
京都芸術大学「芸術学Ⅴ」学芸演習
講師：松山沙樹
共催：京都芸術大学
参加人数：6名(学生5名、引率1名)

感覚をひらく

—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

Opening the Senses: Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(事業実施中核館・京都国立近代美術館)
助成：令和4年度文化庁 Innovate MUSEUM事業(地域課題対応支援事業)

▶2022年3月18日(金)～5月15日(日)[展示]
「エデュケーショナル・スタディズ03:眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」
(エデュケーショナル・スタディズ03の頁を参照)

▶2022年4月13日(水)午後7時30分～[ライブ配信]
「エデュケーショナル・スタディズ03:眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」展関連イベント ギャラリートーク
講師：中村裕太(作家/プロジェクトメンバー)、安原理恵(プロジェクトメンバー)、松山沙樹(京都国立近代美術館)
会場：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2022年4月26日(火)午後7時30分～[ライブ配信]
「エデュケーショナル・スタディズ03:眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」展関連イベント オンライントーク(ウェブサイト/ちらし編)
講師：中村裕太(作家)、仲村健太郎・小林加代子(Studio Kentaro Nakamura)、松山沙樹
会場：京都国立近代美術館1階講堂
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年4月29日(金・祝)午前10時～午後4時
「眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」展関連プログラム
「ABC、ただいま在空中。」
ファシリテーター：中村裕太(作家)、安原理恵、松山沙樹
会場：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
参加人数：93名

▶2022年5月11日(水)午後1時30分～4時
筑波大学附属視覚特別支援学校 修学旅行プログラム「美術館ってどんな音 つくって鳴らそう建築楽器 Season03」
共催：筑波大学附属視覚特別支援学校
協力：京都市京セラ美術館

会場：京都国立近代美術館、京都市京セラ美術館
参加人数：12名(生徒8名、引率4名)

▶2022年9月10日(土)①午前10時30分～正午、②午後2時～3時30分
「清水九兵衛」展関連プログラム
「手だけが知ってる美術館 第5回 清水九兵衛／六兵衛」ナビゲーター：大長智広、松山沙樹(京都国立近代美術館)
会場：京都国立近代美術館1階講堂・3階企画展示室
参加人数：①12名(視覚障害のある方4名)②13名(視覚障害のある方9名)

▶2022年10月18日(火)午後1時40分～2時40分
京都府視覚障害者社会教育指導者研究会「さわる・かんじる・かたりあう～「感覚をひらく」プログラムから～」
主催：京都府教育委員会
主管：京都府乙訓教育局
後援：公益財団法人京都府視覚障害者協会、京都市町村教育委員会連合会
会場：長岡京市中央生涯学習センター
参加者：視覚障害者協会会員18名、社会福祉関係団体7名、行政関係者5名(その他：視察等5名、乙訓教育局職員8名)
講師：松山沙樹、吉澤あき(京都国立近代美術館)
材料協力：長岡銘竹株式会社

▶2022年12月20日(火)午前10時40分～12時20分
京都府立盲学校と京都国立近代美術館の連携事業「さわって、つくって、ひもとく 寛次郎さんのかたち」
主催：京都府立盲学校
実施チーム：中村裕太(作家)、松山沙樹、牧口千夏、吉澤あき(京都国立近代美術館)、岩井洋志、長谷部光二、水野貴子(京都府立盲学校)
会場：京都府立盲学校
参加人数：10名(単一障害クラス5名(全盲3名、弱視2名)、重複障害クラス5名)

▶2023年2月16日(木)午後1時20分～3時5分
奈良県立盲学校 美術作品鑑賞会
共催：奈良県立盲学校
講師：松山沙樹、真下彰宏(長岡銘竹株式会社)
会場：奈良県立盲学校 体育館
参加人数：中等部・高等部生徒18名(単一障害クラス10名(全盲1名、弱視9名)、重複障害クラス8名(全盲4名、弱視4名)、教員21名
運営協力：山本利和、正井隆晶(大阪教育大学特別支援教育講座)

▶2023年3月26日(日)①午前10時30分～12時30分、②午後2時～4時
「甲斐荘楠音の全貌」展鑑賞プログラム
「シューワ・シューワ・アワーズ 手話と日本語で鑑賞を楽しむ会」
主催：手話マップ
共催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業(事業実施中核館：京都国立近代美術館)
会場：京都国立近代美術館
参加人数：①4名(聴覚障害のある方3名)②4名(聴覚障害のある方1名)

「CONNECT⇄」

～アートで ころを こねこねしよう～

令和4年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」

主催：文化庁、京都国立近代美術館

共催：京都府、京都市、京都新聞

特別協力：NHK京都放送局

後援：KBS京都、エフエム京都

協力：京都市京セラ美術館、京都府立図書館、ロームシアター京都、京都市動物園

▶2022年12月3日(土)午後2時～4時

「手でふれてみる世界」上映会&トーク

トーク登壇：岡野晃子(監督/ヴァンジ彫刻庭園美術館副館長)、広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)

会場：京都国立近代美術館1階講堂

参加人数：62名

協力：ヴァンジ彫刻庭園美術館、シネマ・チュプキ・タバタ

▶2022年12月4日(日)①午前10時30分～12時30分 ②午後2時～4時

「無視覚流」で楽しむ!京風まちあるき

講師：河本あずみ・宮崎刀史紀(ロームシアター京都)、仁科豪士・堀奈津子(京都府立図書館)、後藤結美子(京都市京セラ美術館)

ナビゲーター：広瀬浩二郎(国立民族学博物館)、松山沙樹(京都国立近代美術館)

会場：京都国立近代美術館、ロームシアター京都、京都府立図書館、京都市京セラ美術館

参加人数：①13名(視覚障害のある方2名)②10名

配信：「京都国立近代美術館_感覚をひらく」公式YouTubeチャンネル

▶2022年12月16日(金)午後1時～2時30分

共生・多様性・アクセシビリティについて考える連続トーク

「芸術表現と障害、研究とキュレーションの現場から」

出演：服部正(甲南大学文学部教授)、寺岡海(art space co-jin)、牧口千夏(京都国立近代美術館)

会場：京都国立近代美術館1階講堂

参加人数：18名

配信：「CONNECT⇄」公式YouTubeチャンネル

▶2022年12月18日(日)①午前11時～12時30分 ②午後2時30分～4時

筆談鑑賞会「かくみみるつながる」

ファンリテーター：小笠原新也(耳の間こえない鑑賞案内人)

会場：京都国立近代美術館1階講堂・ロビー

参加人数：①11名(聴覚障害のある方2名)②11名(聴覚障害のある方1名)

配信：「京都国立近代美術館_感覚をひらく」公式YouTubeチャンネル、「CONNECT⇄」公式YouTubeチャンネル

出版事業

Publications

展覧会図録(各展覧会の頁を参照)

Exhibition Catalogues

『視る(京都国立近代美術館ニュース)』(隔月発行) Bimonthly Museum Newsletter “MIRU”

▶No. 520(5-6月号)

・REVIEW「鎌木清方、装いを描く目」/大久保尚子(宮城学院女子大学教授)

・「MONDO 映画ポスターと1960年代日本の「サイトウプロセス」/竹内幸絵(同志社大学教授)

▶No. 521(7-8月号)

・ESSAY「清水九兵衛の容の美」/石崎尚(愛知県美術館主任学芸員)

・REVIEW「鎌木清方の底力—昭和・平成・令和を越えて—」/村田隆志(大阪国際大学教授)

・リレーコラム「ラインを超えて共に活動する」/山口貴子(アーティスト)

▶No. 522(9-10月号)

・ESSAY「ヴォルスードイツ/フランス、戦中/戦後をつなぐ架け橋「ルートヴィヒ美術館展」に寄せて」/河本真理(日本女子大学教授)

・REVIEW「清水九兵衛—陶芸と彫刻を統べる造形」/菊川亜騎(神奈川県立近代美術館学芸員)

・リレーコラム「多様性と美術の輝き」/菅原久誠(群馬県立自然史博物館主幹・学芸員/現代美術作家)

▶No. 523(11-12月号)

・MoMAK REPORT「新収蔵品紹介 小出檜重筆《裸女結髪》1927年(昭和2)」/梶岡秀一(当館主任研究員)

・MoMAK REPORT「ともにつくるための「みんなでミュージアム」」/平澤咲・原衛典子(エイブル・アート・ジャパン みんなでミュージアム事務局)

・リレーコラム「地方で作家活動をするということ」/西島雄志(彫刻家/gallery.studio.cafe newroll主宰)

▶No.524(1-2月号)

・ESSAY「甲斐荘家の幕末維新」/鈴木隆(高砂香料工業 特別勤務員)

・REVIEW「美術の公共性——その見えざる「かたち」を想う」/三木順子(京都工芸繊維大学准教授)

・リレーコラム「大名の大狒犬」/中村弘峰(人形師)

▶No.525(3-4月号)

・ESSAY「アクセリ・ガッレン=カッレラとリュイユ《炎》」/本橋弥生(京都芸術大学)

・REVIEW「甲斐荘楠音展：絵画・演劇・映画を越境する個性」/アンネグレート・ベルクマン(東京大学客員准教授)

『京都国立近代美術館活動報告』(年1回発行) “MoMAK Report”

令和2(2020)年度版

『京都国立近代美術館概要』(年1回発行) Annual Museum Brochure “Independent Administrative Institution National Museum of Art, The National Museum of Modern Art, Kyoto”

令和4(2022)年度版

『新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 実施 報告書』(年1回発行)

Annual Report “Project to Promote
Innovative Art Appreciation Programs”

令和4(2022)年度版

その他の事業
Others

京都国立近代美術館 友の会
The Membership of MoMAK

近現代美術に関心を持つ人々の鑑賞や研究の便宜を図り、また当館の多彩な活動をサポートしていただく目的で、平成15年度に「京都国立近代美術館 友の会」を発足させた。

令和3年4月1日からのOKパスポート販売により、令和4年度をもって一般会員の新規入会及び更新受付も終了し、現在は法人会員のみ。

※OKパスポートは国立国際美術館と共同で発行する年間パスポート。

無料観覧日
Free Admission Days
(Collection Gallery only)

企画展を実施していない土曜日などについて、コレクション・ギャラリーの無料観覧を実施。

- 2022年5月14日(土) 夜間開館 入館者数:183人
- 2022年5月21日(土) 入館者数:383人
- 2022年7月16日(土) 入館者数:425人
- 2022年7月23日(土) 入館者数:160人
- 2022年10月1日(土) 入館者数:256人
- 2022年10月8日(土) 入館者数:300人
- 2022年11月3日(木) 文化の日 入館者数:804人
- 2022年11月19日(土) 関西文化の日 入館者数:729人
- 2022年11月20日(日) 関西文化の日 入館者数:674人
- 2023年1月28日(土) 入館者数:320人
- 2023年2月4日(土) 入館者数:302人

夜間開館
Evening Hours

2022年5月18日(水)まで(1月28日を除く)は毎週金・土曜日、5月19日以降は企画展開催中の毎週金曜日に午後8時(入館は午後7時30分)まで夜間開館を実施。あわせて、コレクション展、自主企画展において延長時間(午後6時以降)については観覧料の夜間割引を実施。

※5月27日から7月10日まで(錦木清方展開催期間中)は、開館時間を午前9時30分とした。

2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金):計50日間
入館者数:51,902人(夜間入館者:639人)

- ▶コレクション・ギャラリー及び企画展における展示目録の作成・頒布(日・英)
- ▶コレクション・ギャラリー及び企画展における音声ガイドの提供(日・英)
- ▶展覧会案内カレンダーの作成・頒布(日・英)
- ▶MoMAK Films パンフレットの作成・頒布
- ▶京都国立近代美術館フロアガイド各国語版の頒布(日・英・独・仏・伊・西・簡体中文・繁体中文・韓)の頒布
- ▶鑑賞の手引書「ガイドブック」や「ガイドマップ」の頒布
- ▶京都国立近代美術館 点字・拡大文字パンフレットの作成・頒布
- ▶京都国立近代美術館公式ウェブサイト(日・英・簡体中文・韓)およびSNS(facebook、Instagram 公式アカウント)による広報やギャラリートークの配信を実施
- ▶公式YouTubeチャンネルによる講演会の現地・オンライン開催や教育普及事業のオンライン開催を実施、アーカイブ動画を公開
- ▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の特設ページによる広報(文字サイズの拡大・白黒反転)
- ▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」事業紹介リーフレットの頒布(日・英)
- ▶京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内「京都ミュージアムズ・フォー」を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施
- ▶展覧会アンケートと次回展覧会の紹介を兼ねたカードの作成・頒布
- ▶発達障害がある方とその家族に向けた美術館案内冊子「Social Story はじめて美術館にいきます。」の作成・頒布(協力:国立アートリサーチセンター)

福永 拓

【論文等】

- ▶「『布の翼』展』『布の翼』展 記録冊子、染・清流館、2022年10月3日、2-3頁
- ▶「外部審査員雑感』『日展ニュース』第183号、日展、2023年2月10日、14頁
- ▶『第8回Art Exhibition 瀬戸内大賞』審査員総評・作品評、一般社団法人くれしん芸術文化財団、2023年3月2日、1頁
- ▶『文教ニュース』第2742号「とらのもん往来」、(懶)文教ニュース社、2023年3月13日、45頁
- ▶「I氏賞への想い』『岡山県新進美術家育成「I氏賞」15周年記念誌』、岡山県新進美術家育成「I氏賞」事業運営委員会、2023年3月23日、4頁
- ▶『第56回女流陶芸公募展カタログ』審査講評、女流陶芸、2023年3月30日、4頁

【口頭発表等】

- ▶対談「伝統と革新が織りなす文化的厚み ものづくりの技や知恵を次世代へ」、京都中央信用金庫理事長対談企画82th ANNIVERSARY On Your Side トーク＜未来をつむぐ＞、京都新聞朝刊2022年6月18日掲載、企画・製作：京都新聞COM、会場：京都中央信用金庫本店、2022年4月11日

池田 祐子

【論文等】

- ▶「近代美術のコレクターと美術館—ハウプリヒ・コレクションとその背景をめぐって』『ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション』展図録、京都国立近代美術館ほか、日本経済新聞社、2022年6月29日、186-191頁
- ▶『ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション』展図録、章解説・コレクター／団体解説・作家／作品解説、京都国立近代美術館ほか、日本経済新聞社、2022年6月29日
- ▶「藍のフェルケール：福本潮子の作品をめぐって』『福本潮子 藍色の世界』展図録、一般財団法人清水港湾博物館（フェルケール博物館）、2022年10月18日、42-49頁
- ▶「さまざまに越境し混交する個性 甲斐荘楠音をめぐる現在地』『開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性』展図録、京都国立近代美術館ほか、日本経済新聞社、2023年2月11日、11-16頁

【口頭発表等】

- ▶招待発表「Nationalmuseum für Moderne Kunst in Tokyo und Kyoto: Geschichte, Profil und Kontext des Kunstmuseums in Japan」“Session Guest Country Japan”、5. Schweizerischer Kongress für Kunstgeschichte、主催：Vereinigung der Kunsthistorikerinnen und Kunsthistoriker in der Schweiz und Universität Zürich、会場：チューリヒ大学、2022年6月22日
- ▶担当研究員によるクロストーク「展覧会が社会を開く—コレクターたちが見た時代の記録と提言—」主催：国立新美術館、日本経済新聞社、会場：国立新美術館講堂、2022年7月23日
- ▶講演会「改良服 (Reformkleid) と女性たち—チャンネル以前の試みとその拡がり」主催：豊田市美術館、会場：豊田市美

術館講堂、2022年8月21日

- ▶三浦篤（東京大学大学院教授）氏講演会「今、ジャポニスム（研究）を考える」コメンテーター、主催：ジャポニスム学会、オンライン開催、2022年10月15日
- ▶担当研究員によるクロストーク「展覧会が社会を開く—コレクターたちが見た時代の記録と提言—」主催：京都国立近代美術館、日本経済新聞社、会場：京都国立近代美術館1階講堂、2022年11月20日

小倉 実子

【論文等】

- ▶「清方さんと京都』『没後50年 錦木清方展』展図録、京都国立近代美術館ほか、毎日新聞社・NHK・NHKプロモーションほか、2022年3月18日、234-236頁
- ▶『没後50年 錦木清方展』展図録、編集・章解説・出品目録／解説、京都国立近代美術館ほか、毎日新聞社・NHK・NHKプロモーションほか、2022年3月18日

梶岡 秀一

【論文等】

- ▶「フランスにおける久松定謨と黒田清輝』『伊予史談』第405号、伊予史談会、2022年4月1日、1-10頁
- ▶「都市と神話／歴史と抽象 一日本画家 岩波昭彦略伝—」『いにしへ そして現在 岩波昭彦の世界』、公益財団法人 鋸山美術館、2022年4月17日、8-13頁
- ▶「画家として、映画人として……多面的な表現を貫く精神性』『美術の窓』12月号、生活の友社、2022年12月20日、62-65頁
- ▶「新収蔵品紹介 小出楢重筆《裸女結髪》1927年(昭和2)』『京都国立近代美術館ニュース視る』523号、京都国立近代美術館、2023年1月18日、2-4頁
- ▶「アートダイアリー100 甲斐荘楠音 一分野も性別も越境するサーヴィス精神旺盛な画家』『文化庁広報紙ぶんかる』(文化庁web)、文化庁、2023年1月25日配信
- ▶「肌香を聞く 甲斐荘楠音スケッチ群の楽しみ」(175-179頁)、章解説(18頁、56頁、98頁)『甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性』展図録、日本経済新聞社、2023年2月11日
- ▶「『甲斐荘楠音の全貌』展 演じ、扮し、着飾る』『公明新聞』、公明党、2023年2月22日、5面

【口頭発表等】

- ▶講演会「美人画と近代の乙女」、主催・会場：福井県立美術館、2022年6月4日
- ▶講演会「明治の東西美術文化交流 久松定謨と黒田清輝を中心に」、主催・会場：愛媛県美術館、2022年12月3日
- ▶講演会「明治の風景を外から見る/外へ見せる」、主催・会場：長野県立美術館、2023年3月12日

牧口 千夏

【論文等】

- ▶『ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション』展図録、作家／作品解説、京都国立近代美術館ほか、日本経済新聞社、2022年6月29日
- ▶「竹村京の描く白い時間」「竹村京 白の時間」展、Art Project with P.G.C.D. (オンライン)、2022年7月

- ▶「ピピロッチェ・リストのビデオ・インスタレーションにおける皮膚感覚」平芳幸浩編『現代の皮膚感覚をさぐる—言葉、表象、身体』(『ポスト身体社会』における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究) 科研報告書) 春風社、2023年3月19日、165-190頁

大長 智広

【論文等】

- ▶「『Wabi-sabi und das japanische Kunsthandwerk』『Mythos Handwerk Zwischen Ideal und Alltag』、Verlag für moderne Kunst、2022年、104-107頁
- ▶「林康夫の《雲》』『Pure Form: Japanese Sculptural Ceramics』、Art Gallery of South Australis、2022年、25頁
- ▶「清水洋と七代六兵衛の陶芸』『生誕100年 清水九兵衛／六兵衛』展図録、京都国立近代美術館ほか、京都国立近代美術館、2022年4月13日、178-211頁
- ▶『生誕100年 清水九兵衛／六兵衛』展図録、構成／編集・インタビュー聞き手・章解説、京都国立近代美術館ほか、京都国立近代美術館、2022年4月13日
- ▶「審査員特別賞(大長智広賞) 講評 《Awakening Wind Chillout》アサ佳」『第4回瀬戸・藤四郎トリエンナーレー瀬戸の原土を活かして—』、大せともの祭協賛会、2022年4月16日、8頁
- ▶「八木家にみる「抗走の系譜』『構想の系譜』、中長小西、2022年5月、頁記載なし
- ▶「今野智子展によせて」、『今野智子展』リーフレット、目黒陶芸館)、2022年5月、頁記載なし
- ▶「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛』、『陶説』No.828、日本陶磁協会、2022年6月1日、24-26頁
- ▶「前衛陶芸(オブジェ陶)と伝統—《ザムザ氏の散歩》における轆轤の位置づけ』『美術フォーラム21』vol.45、一般社団法人 きょうと視覚文化振興財団、2022年6月30日、75-80頁
- ▶「九兵衛と六兵衛をつなぐもの《生誕100年 清水九兵衛／六兵衛》展』『文化庁広報紙ぶんかる』(文化庁web)、2022年8月1日配信
- ▶「戸田浩二展によせて』『祈りの形II 戸田浩二展』DM、玄羅アート、2022年9月、頁記載なし
- ▶黒の深淵 vol.4 『オブジェ、の土の黒』◆陶芸作家「八木一夫」を語る(インタビュー記事)、BUNBOU WEB、公開日2022年10月17日 <https://note.com/bunbou/n/nf97fb7e01137>

【口頭発表等】

- ▶「対談 秋山陽×大長智広」主催：秋山陽-Far Calls and Textures-、会場：アートコートギャラリー、2022年5月21日
- ▶講演会「清水洋と九兵衛と六兵衛のあいだ—京焼の名家の中で」主催：京都・ミュージムズ・フォー、会場：京都国立近代美術館、2022年8月20日
- ▶「第69回日本伝統工芸展 陶芸 講評会」主催：日本工芸会 陶芸部会、会場：オンライン、2022年9月21日
- ▶招待発表「The National Museum of Modern Art, Kyoto and its Collection」A One Day Conference: CRAFT AND FUTURE INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE 主催：WEST DEAN COLLEDGE ARTS & CONSERVATION / CRAFTS STUDY CENTER, UNIVERSITY FOR THE CREATIVE ARTS、会場：WEST DEAN COLLEDGE ARTS & CONSERVATION、2023年3月30日

平井 啓修

【論文等】

- ▶「大坂(大阪)画壇の魅力と可能性』、『新美術新聞』No.1597、美術年鑑社、2022年4月11日付
- ▶「和魂漢才—書画のススメ 当展自慢の一巻 十時梅屋「訪米山人居宅図巻』』『美術の窓』2022年4月号(第41巻第4号通巻483号)、生活の友社、2022年4月20日、98-99頁
- ▶レビュー「サロン! 雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇」(京坂の文化サロンを通覧する初めての大規模展)『美術の窓』2022年4月号(第41巻第4号通巻483号)、生活の友社、2022年4月20日、156頁
- ▶「大坂画壇研究の可能性』、『京都市民報』、京都市民報社、2022年5月8日付
- ▶「隠れた名作、ここが“私的”見どころです』『和楽』2022年8・9月号(第22巻第4号)、小学館、2022年7月1日、77頁

【口頭発表等】

- ▶講演会「『サロン! 展』からみた住友コレクションの文人画」、主催・会場：泉屋博古館、2022年4月17日
- ▶講演会「“沈南蘋”をキーワードにして読み解く」、主催：京都国立近代美術館、会場：京都国立近代美術館+WEB配信、2022年4月30日
- ▶学会発表(オンライン)「サロン! 展にみる大坂(大阪)画壇研究の可能性」、主催：関西大学芸術学美術史研究学会、2022年11月6日
- ▶座談会「これからの大阪画壇」、主催・会場：大阪美術倶楽部、2023年2月25日

【助成】

- ▶共同研究者／国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)「上方文化サロン：人的ネットワークから解き明かす文化創造空間 1780-1880」(研究代表者：大英博物館・矢野明子、立命館大学・赤間亮)

松山 沙樹

【論文等】

- ▶「美術をふれて味わう—京都国立近代美術館「感覚をひろく」の実践から—』、『教育美術』2022年6月号 (No.960)、2022年6月1日、22-23頁
- ▶「教美アートギャラリー 第3回 京都国立近代美術館【作品の世界にどっぷり浸かって…】』、『教育美術』2022年9月号 (No.963)、2022年9月1日、10頁

【口頭発表等】

- ▶ポスター発表「視覚支援学校の絵画鑑賞とその教材等についての一考察」、主催：日本特殊教育学会 第60回大会、会場：つくば国際会議場、2022年9月17日
- ▶シンポジウム「絵にさわる—視覚障害児者のための絵画鑑賞モデルの構築に向けて—」主催：日本特殊教育学会 第60回大会、会場：つくば国際会議場 大会議室101、2022年9月19日
- ▶「障害のある方と協働した鑑賞プログラムづくりから考える美術館のこれから」主催：全日本博物館学会行事「博物館のこれからを考える—現場の視点と共に—」、会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス+オンライン、2023年2月4日
- ▶「もぞもぞする現場—芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー 第5回 そもそも美術

館について」、主催：文化庁／一般社団法人HAPS、会場：京都国立近代美術館1階講堂、2023年1月14日

▶「感覚をひらく事業 研究会 ひらくラボ1[美術館は、視覚だけに依らない鑑賞経験をどのようにデザインできるか]」司会進行・事例紹介、主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館：京都国立近代美術館)、会場：京都国立近代美術館1階講堂、2023年3月11日

▶「感覚をひらく事業 研究会 ひらくラボ2[美術館は、『絵にさわる』体験をどのようにデザインし、届けることができるか]」司会進行・事例紹介、主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館：京都国立近代美術館)、会場：京都国立近代美術館1階講堂、2023年3月12日

[助成]

▶令和4年度 文化庁 Innovate MUSEUM事業「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」(実施中核館：京都国立近代美術館)

▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「視覚障害児者のための絵画鑑賞モデルの構築」(令和3年度～令和5年度：研究代表者・大阪教育大学特任准教授 正井隆晶)

宮川智美

[論文等]

▶「関西の陶芸展：新宮さやか展—As My Own Psyche Indicates」『陶説』832号、日本陶磁協会、2022年10月、98-100頁

▶「リュウコを現代に繋ぐ視点—トゥオマス・ソパネン・コレクション」『リュウユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション』展図録、京都国立近代美術館ほか、京都国立近代美術館、2023年1月27日、81-85頁

▶『リュウユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション』展図録、編集、京都国立近代美術館ほか、京都国立近代美術館、2023年1月27日

[助成]

▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究」(令和3年度～令和7年度：研究代表者・宮川智美)

▶スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団「『リュウユーフィンランドの織物：トゥオマス・ソパネン・コレクション』展開催にともなう図録の刊行」

▶鹿島美術財団美術に関する調査研究助成「北欧における染織文様の研究—フィンランドにおけるリュウコ織を中心に—」

村松綾

[論文等]

▶「金細工師の社会的地位と技能—16世紀の都市パーゼルを中心に—」『比較都市史研究』第41巻、比較都市史研究会、2022年12月、14-36頁

▶「帝国都市ニュルンベルクの金細工師ヴェンツェル・ヤムニツァーとスイスのパーゼル市に残された自然物鑄造作品に関する一考察」『FUSUS』15号、アジア鑄造技術史学会、2023年3月、137-144頁

[口頭発表等]

▶学会発表(オンライン)「16世紀パーゼルの金工コレクション形成過程にみるニュルンベルク出身者の役割：Jobst Friedrich Tetzl (1556-1612)を中心とした一考察」第72

回日本西洋史学会大会 自由論題報告 近世史部会、主催：東洋大学、2022年5月22日

[助成]

▶科学研究費補助金(若手研究)「中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究—W.ヤムニツァーを中心に」(令和2年度～令和5年度：研究代表者・村松綾)

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館評議員 (50音順) 令和4年度 The Board of Trustees

Table with 2 columns: 現職, 氏名. Lists members of the Board of Trustees including 青木 淳, 赤松玉女, 上野真知子, etc.

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館職員 令和4年度 Museum Staff

Table with 2 columns: 現職, 氏名. Lists museum staff including 福永 治, 池田祐子, 津寄憲治, etc.

調査研究

名簿

京都国立近代美術館 活動報告
令和4年度

令和6年3月12日 印刷
令和6年3月28日 発行

発行者 福永治
発行所 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
(075) 761-4111
デザイン 村松道代(taohaus)
印刷所 和光印刷株式会社
電話：(075) 441-5408

[非売品]
ISSN 2185-1859

MoMAK Report 2022
The National Museum of Modern Art, Kyoto

Published by The National Museum of Modern Art, Kyoto
Printed by Wako Printing Co., LTD.
© 2023 The National Museum of Modern Art, Kyoto

[not for sale]
ISSN 2185-1859

The National Museum of Modern Art, Kyoto